

**令和5年度
半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略
有識者会議 評価報告書**

令和5年11月
半田市まち・ひと・しごと創生有識者会議

目次

1. 半田市まち・ひと・しごと創生有識者会議…………… 1 ページ
2. 評価制度…………… 3 ページ
3. 評価の総括…………… 7 ページ
4. 総合評価（庁内評価含む）…………… 13 ページ
5. デジタル田園都市国家構想交付金対象事業の効果検証…………… 69 ページ

1. 半田市まち・ひと・しごと創生有識者会議

(1) 半田市まち・ひと・しごと創生有識者会議について

半田市まち・ひと・しごと創生有識者会議（以下「有識者会議」という。）は、「半田市人口ビジョン」及び「第2期半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「総合戦略」という。）の策定及び推進のために設置されたものである。

総合戦略の推進にあたっては、人口減少への対応や地域経済の活性化に向けた今後5か年の基本目標を達成するため、P D C Aサイクルを確立し、総合戦略に定める具体的施策を効果検証し、継続的な改善を図ることが重要である。

そこで、有識者会議では、基本目標の数値目標及び具体的な施策に係るK P Iの達成度や具体的施策に係る各事業の効果を中心に検証するとともに、必要に応じて総合戦略の見直しや次期の総合戦略に対する提言等を行うことで、半田市の地方創生の推進を強力に支えていくことを目指す。

(2) 有識者会議の構成委員

No.	分野	団体名等	氏名
1	産業	株式会社 Mizkan Partners 広報部 部長	高木 宏
2	産業	名鉄観光サービス株式会社 営業推進本部地域活性化推進部 部長	福井 佳代
3	行政機関	愛知県観光コンベンション局 観光振興課長	大参 孝彰
4	教育機関	日本福祉大学 准教授	◎鈴木 健司
5	教育機関	日本福祉大学 教授	遠藤 由美
6	教育機関	県立半田商業高等学校 校長	林 正也
7	金融機関	知多信用金庫 常務理事	北村 文夫
8	労働団体	J F E スチール知多労働組合 執行委員長	福田 昌寛
9	マス メディア	元NHK記者、元半田記者クラブ所属	山本 幸太郎

◎委員長

2. 評価制度

(1) 評価制度

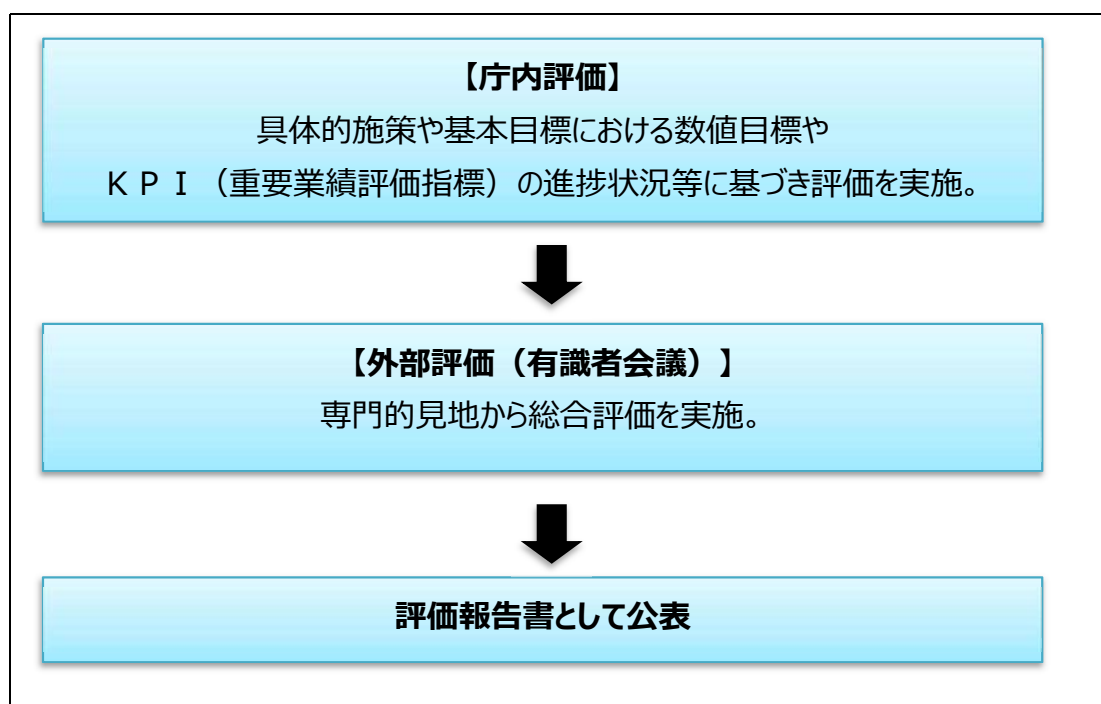
総合戦略は、2020 年度から 2024 年度までの 5 か年計画である。総合戦略の推進にあたっては、P D C A サイクルの確立に向けた評価制度を導入し、庁内評価のみならず、有識者会議による効果検証を実施する。

①目的

- 半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理の確保
- 外部有識者の参画による客観性のある質の高い効果検証の実現
- 行政の透明性の向上

②評価方法

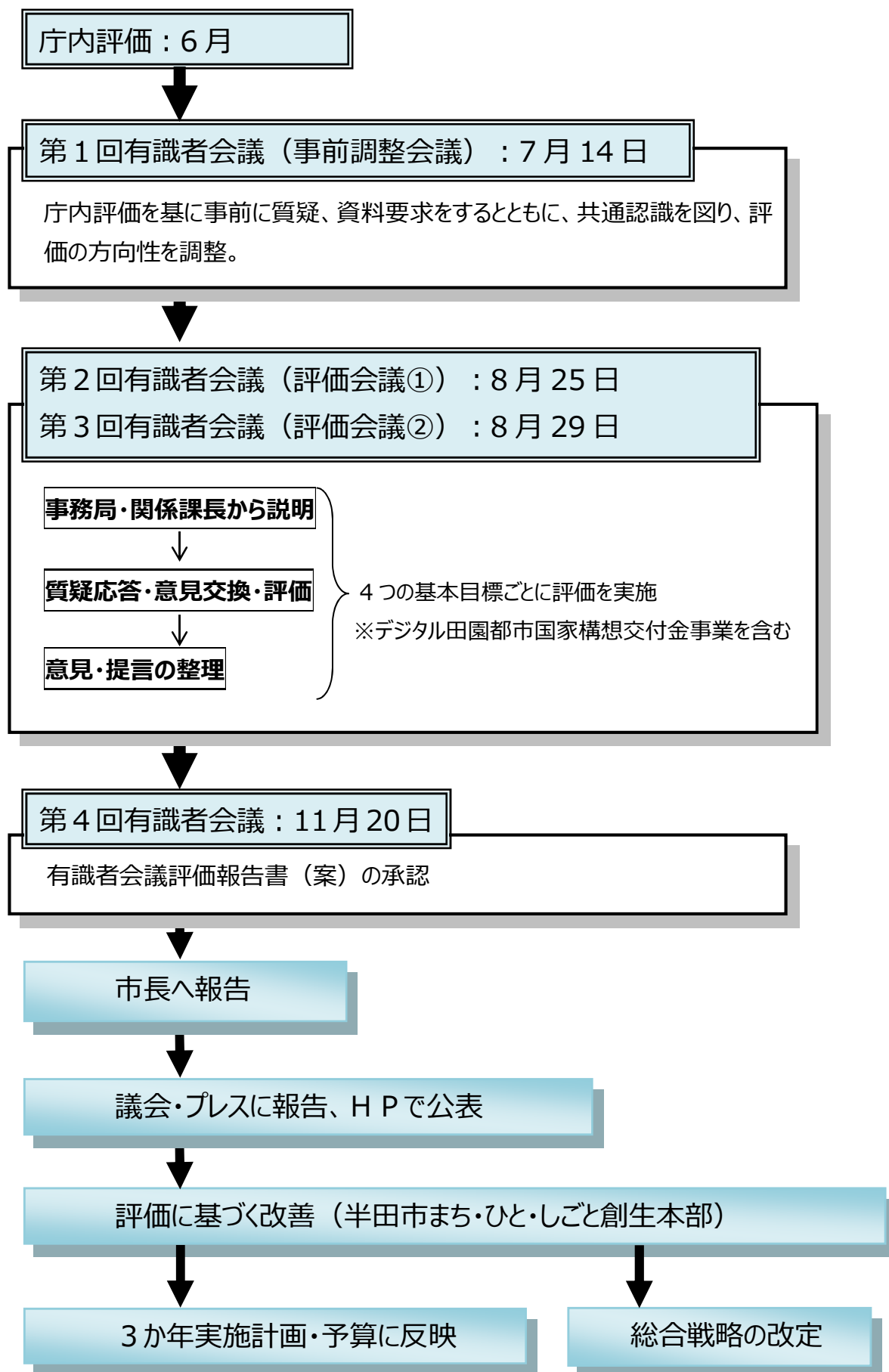
総合戦略には 4 つの基本目標が定められており、基本目標ごとに、毎年評価を実施する。有識者会議による評価は、庁内評価の後、総合戦略評価表等の資料を基に担当課へのヒアリングを実施したうえで評価を行う。なお、評価結果は、最終的に評価報告書として取りまとめる。



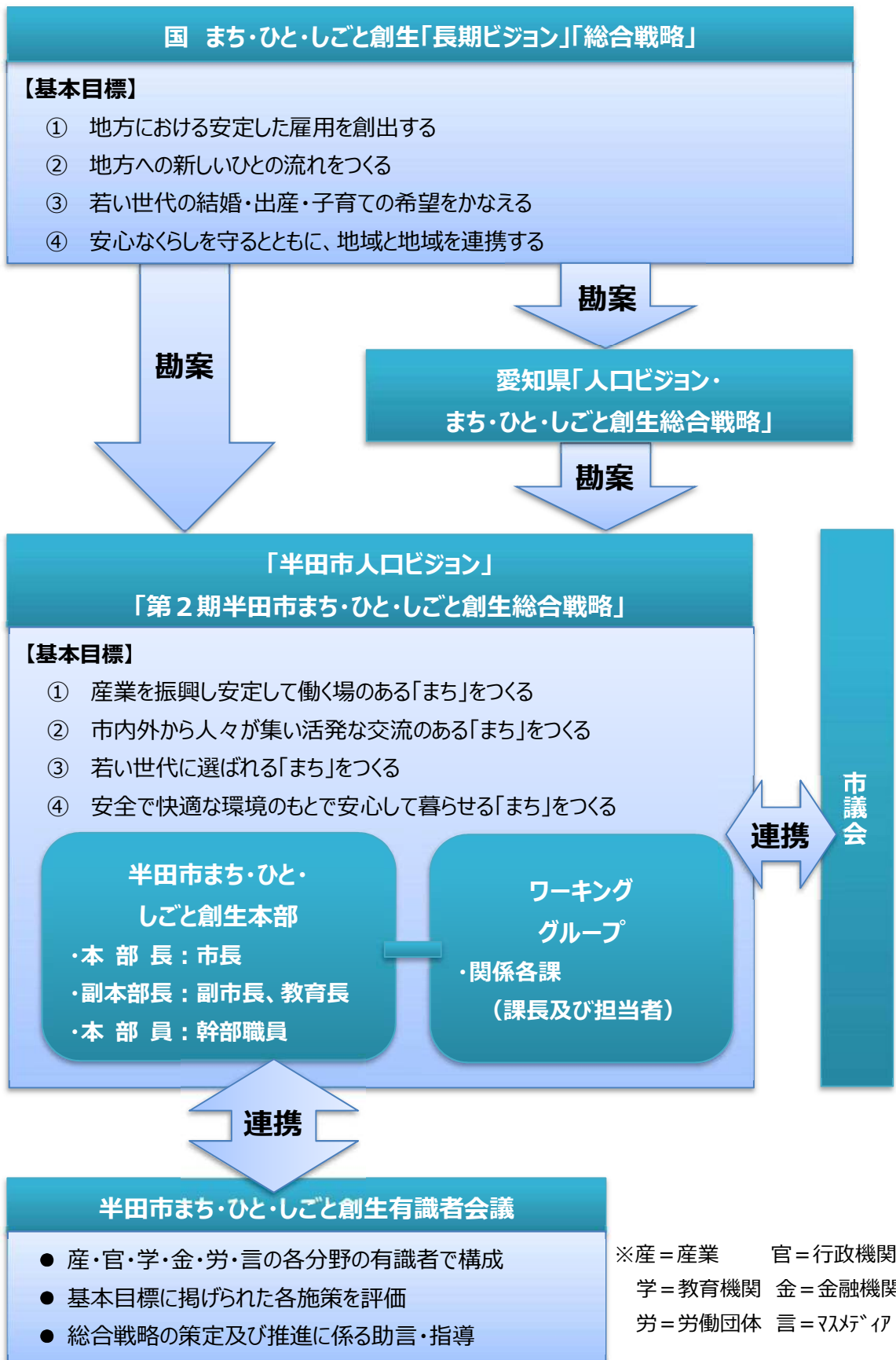
③評価報告書の反映

半田市は、評価報告書の反映状況を有識者会議に報告する。なお、報告対象とする内容は、原則として前年度分の提言等とする。

【評価フロー図】



(2) 推進体制



3. 評価の総括

(1) 評価の総括

○令和5年度の有識者会議

令和5年度の有識者会議は4回開催され、総合戦略の進捗状況とデジタル田園都市国家構想交付金の対象事業の有効性についての評価を行った。評価にあたっては、基本目標における数値目標及び重要業績評価指標（KPI）の達成状況や各事業の成果、担当課長等へのヒアリング内容をふまえた総合的な評価とした。

○評価

総合戦略における各指標の進捗をみると、「達成(AA)」または「順調に推移(A)」となった指標は、「基本目標における数値目標」では全8項目中2項目、「重要業績評価指標(KPI)」では全32項目中9項目に留まり、指標に対する達成度という点では改善を要する施策もみられる状況である。

有識者会議では、前述の各指標の進捗のほか、施策自体の内容や進捗等も含めて総合的に勘案し、4つの基本目標に対する評価を行った。その結果として、「AA(良好)・A(概ね良好)・B(改善・見直しの必要あり)・C(改善を行い一層の努力が必要)」の4段階のうち、A評価の基本目標が2件、B評価の基本目標が2件となり、全体的には一定の進捗がみられた。また、デジタル田園都市国家構想交付金の対象事業の評価も実施し、令和4年度に国から認定を受けた2事業については、いずれも「総合戦略のKPI達成に有効であった」と認められた。

総合戦略の推進にあたっては、これまでと同様に数値目標の達成度のみには捉われないこととなく、各施策に対する意見や提言も重視していただきたい。市独自の取組や新たな取組もあるが、その一方で、発展の余地のある取組や分析を深めるべき取組もあるため、引き続き改善を図っていただきたい。

○各基本目標の評価

【基本目標1】産業を振興し安定して働く場のあるまちをつくる

⇒全体評価：A（概ね良好）

商業・農業・工業のバランスがとれている本市の特長を活かしながら、各産業の振興のための取組を着実に実施できている。また、中心市街地活性化に係る市長特任顧問の登用等、幅広い人材を積極的に活用する方向性を打ち出している点も評価できる。

ただし、個別の施策については改善を要するものがある。市内の店舗や企業における人手不足や事業継承への対応は、産業振興や働く場の創出という本目標に関わる重要な課題であるため、さらなる実態の把握と効果的な取組の検討、実施が求められる。

【基本目標 2】市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる

⇒全体評価：B（改善・見直しの必要あり）

コロナ禍の制限やアフターコロナの積極的な動きが求められる中であったものの、観光施策全般を着実に実施できている。コロナ禍を経て変化したと考えられる観光客の行動様式やニーズをふまえ、例えば体験型サービスの創出等による観光資源の高付加価値化のように、観光客の満足度を高めるための取組とその成果を測るための指標の設定が今後の課題である。

【基本目標 3】若い世代に選ばれるまちをつくる

⇒全体評価：B（改善・見直しの必要あり）

若い世代（39 歳以下）の転入出について、3 年連続の転出超過となった。今後は子育て世帯や若い世代における意識と行動様式の把握につながるような調査や分析に積極的に取り組む必要がある。子育て支援の施策全般としては着実に取り組んでいるため、前述の調査や分析をふまえたうえで、より効果的な施策の検討や P R の充実を図っていくことが重要である。

【基本目標 4】安全で快適な環境のもとで安心して暮らせるまちをつくる

⇒全体評価：A（概ね良好）

防災・防犯、文化の振興や継承、医療・健康といった多岐にわたる分野において、各施策における問題と課題を的確に把握し、取組を進めることで成果を上げられており、本目標である安全・安心なまちづくりにつながっている。

一方で、指標の「これからも半田市に住み続けたいと思う市民の割合」は低下している。前述の成果を本市の魅力として捉え、基本目標 3「若い世代に選ばれるまちをつくる」と関連させた情報発信につなげることにより、指標の向上を図っていくことが重要である。

○結び

半田市の人口は、117,484 人（令和 5 年 4 月 1 日時点）で、令和元年度以降減少が続いている。転入の増加や転出の抑制を含む地方創生の推進にあたっては、持続性のある取組を地道に続けていくことが重要である。今後、転入・転出の要因分析や市民アンケート等による住民の意識やニーズの把握に努め、適切かつ効果的な施策を展開していただきたい。




今回の事業評価の対象年度である令和 4 年度は、現行の総合戦略の計画期間の 5 年うちの 3 年目であり、折り返しの時期にあたる。今後は総合戦略の後半として、次期総合戦略の策定を見据えながら、さらなる事業改善を進め、引き続き人口減少への対応や地域経済の活性化に向けて邁進していただきたい。

(2) 有識者会議の開催経過





会 議	日時・場所	内 容
第1回会議	令和5年7月14日(金) 半田市役所 庁議室	評価会議に向けた事前調整
第2回会議	令和5年8月25日(金) 半田市役所 大会議室	総合戦略の評価 (基本目標3、4)
第3回会議	令和5年8月29日(火) 半田市役所 庁議室	総合戦略の評価(基本目標1、2)、デジタル田園都市国家構想交付金対象事業の評価
第4回会議	令和5年11月20日(月) 半田市役所 大会議室	評価報告書の承認・報告、 市長との意見交換

(3) 評価結果の概要

① 総合戦略の評価

基本目標		有識者評価		各委員の 評価内訳
1	産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる	A		AA…0人 A…6人 B…2人 C…0人
2	市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる	B		AA…0人 A…0人 B…8人 C…0人
3	若い世代に選ばれる「まち」をつくる	B		AA…0人 A…0人 B…6人 C…0人
4	安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる	A		AA…0人 A…6人 B…0人 C…0人

【有識者会議評価等の評価基準表】

評価	マーク	説明
AA		良好です 施策実施状況・方向性については「良好」。目標値の達成状況などから成果も「良好」。引き続きこの方向性で推進を。
A		概ね良好です 施策実施状況・方向性については「概ね良好」。改善を加えながらも、この方向性で引き続き推進を。
B		改善・見直しの必要があります 施策実施状況から、「努力・改善・見直しが必要」。
C		改善・見直しを行い一層の努力が必要です 施策実施状況から、「より一層の努力・改善・見直しが必要」。

②デジタル田園都市国家構想交付金対象事業の評価（効果検証）

事業名		総合戦略における K P I への効果
1	生きがいと社会貢献を育む新地域コミュニティの構築事業	効果あり (基本目標 3、4)
2	伝統のまち「はんだ」の魅力向上事業	効果あり (基本目標 1～4)

4. 総合評価（庁内評価含む）

【令和5年度】半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表

人口等の推移

(単位：人)

	2012年度 (平成24年度)	2013年度 (平成25年度)	2014年度 (平成26年度)	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)	
人口	119,610	119,352	118,929	118,700	118,824	118,824	
14歳以下	男	9,311	9,157	8,905	8,701	8,518	8,370
	女	8,525	8,350	8,116	7,963	7,775	7,679
15～39歳	男	19,254	18,788	18,432	18,196	18,180	18,254
	女	17,622	17,207	16,766	16,415	16,180	16,071
40～64歳	男	20,742	20,695	20,637	20,622	20,714	20,784
	女	19,794	19,801	19,699	19,675	19,728	19,840
65歳以上	男	10,735	11,208	11,670	12,059	12,380	12,559
	女	13,627	14,146	14,704	15,069	15,349	15,520
転入者数	4,466	4,522	4,271	4,803	4,834	5,117	
転出者数	4,523	4,650	4,568	4,701	4,380	4,423	
出生数	1,064	975	966	989	965	924	
死亡数	979	1,078	1,002	1,000	1,108	1,102	

	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	
人口	119,775	120,051	119,590	118,873	117,833	117,418	
14歳以下	男	8,293	8,152	8,056	7,872	7,685	7,522
	女	7,624	7,574	7,455	7,261	7,088	6,912
15～39歳	男	18,442	18,485	18,186	17,841	17,434	17,347
	女	15,959	15,954	15,741	15,447	15,108	14,935
40～64歳	男	20,988	21,103	21,119	21,156	21,178	21,223
	女	20,016	19,995	19,937	19,951	19,936	19,969
65歳以上	男	12,754	12,922	13,076	13,215	13,214	13,266
	女	15,699	15,866	16,020	16,130	16,190	16,244
転入者数	5,628	5,435	4,534	4,586	5,001		
転出者数	4,835	5,136	4,989	5,043	5,138		
出生数	946	900	880	791	785		
死亡数	1,147	1,090	1,190	1,220	1,298		

※人口は10月1日現在の住民基本台帳より引用。

【参考】半田市人口ビジョンにおける人口展望(各年度10月1日時点)

(単位：人)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
国勢調査ベース	116,520	116,360	116,200	116,140	116,080	116,020
住民基本台帳 ベースに換算	118,018	117,864	117,710	117,638	117,566	117,494

※2018～2020年度の数值は、2015年度から2020年度の間に均等に減少するものとして算出。

※2021～2023年度の数值は、2021年度から2025年度の間に均等に減少するものとして算出。

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（基本目標）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

基本的方向

- 経営の安定化や新規の事業展開、創業に対する支援をし、企業の競争力向上を目指すとともに、賑わいの創出を図るため、商業の活性化に取り組みます。
- 市内に企業が進出しやすい環境を整え、誘致活動を強化することで地域経済の活性化と雇用の創出をします。
- 新規就農者を増やすとともに、農業者の「稼ぐ力」の向上を目指します。
- 求人と求職のマッチングに取り組み、若い世代を中心に就労を支援します。

【基本目標における数値目標の実施状況】

指標	基準値 (2018)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
有効求人倍率	1.6倍	1.5倍	0.9倍	1.1倍	1.2倍			1.6倍	C
目標値に対する達成度			基準値未満	基準値未満	基準値未満				
製造業従業者数	16,584人	16,584人 (2018)	17,756人 (2019)	18,054人 (2020)	19,497人 (2021)	(2022)	(2023)	17,500人	AA
目標値に対する達成率			127.9%	160.5%	318.0%				
農業産出額	762 千円 (2017)	747 千円 (2018)	769 千円 (2019)	762 千円 (2020)	777 千円 (2021)	(2022)	(2023)	765 千円 (2023)	AA
目標値に対する達成率			233.3%	0.0%	500.0%				

市内全体評価

※取り組みに対する全体評価、基本目標における数値目標に対する達成状況、今後の課題等

有効求人倍率については、コロナ禍の影響により、2020年度に大幅に落ち込んだが、徐々に回復傾向にあり、2022年度は1.2倍であった。求人数は増加傾向、求職者数は減少傾向にあり、人材獲得に対する支援のため、まずは事業所等へのアンケート調査を実施するなど、現状把握を行う必要がある。

製造業従業者数については、コロナ禍の社会経済活動の停滞で伸びは鈍化したものの、自動車部品等製造業を中心とした設備投資により順調に増加しており、目標値を上回っている。各種補助金、優遇税制や工業団地造成事業等を推進することで企業が進出しやすい環境整備等を引き続き展開し、幅広く企業の事業活動を支援していく。


農業算出額については、毎年増減はあるものの、2022年度(2021)は、これまでPRを継続してきた知多牛ブランドである肉用牛の算出額が増加したことに伴い、777千円となり、目標を達成した。今後も強みとなっている知多牛ブランドを推進し、また、2022年12月より登用した6次産業化プロジェクトリーダーとともに農業者等のつながりを創出していくことで、市の農業振興を図っていく。また、6次産業化及び農村漁村イノベーション等の総合的な就農相談窓口の開設を行い、多様な担い手を確保していくとともに、農業者の支援・育成を行う。

中心市街地活性化では、2022年12月より中心市街地市長特任顧問を登用し、官民連携で推進していくため、地域の関係団体等と意見交換や調整を進めている。行政だけではなく、地域や民間と連携し、様々な要素を有した賑わいのある中心市街地の形成に向け、市長特任顧問を中心に取組みを強化していく。

有識者会議全体評価（意見・提言）

有識者会議全体評価

A



委員の内訳

AA … 0人
 A … 6人
 B … 2人
 C … 0人

第2期総合戦略
各年度の評価

・R3年度：A
 ・R4年度：A

○良いところ・伸ばしていくべき部分

【多様な人材の活用】

中心市街地の活性化や農業の6次産業化を推進するための民間人材の登用、産業振興会議の委員等、多様な人材の意見やアイデアを取り入れながら施策を実施できている。

【農業経営の基盤構築】

農業経営の基盤構築のための各種支援を着実に実施できている。

【新規就農につながる取組】

新規就農に向けた新たな取組として、畜産農家等と連携して学生向けのリモート講座を実施している。農業大学校へのPRを含めたこれらの取組が市内の畜産農家へのインターンシップにつながっており、新規就農に向けた良い機会となっている。

【知多牛ブランドの強化】

これまでの取組から知多牛の認知度をある程度高めることができた。今後さらに知多牛のブランド力を向上させるために、新たな施策の検討を進める必要がある。それにあたっては、環境負荷の軽減等に配慮した持続可能な肉用牛生産や、牛肉の安定供給といった課題をふまえた取組の検討が必要である。

【市内企業への就職の促進】

市内の高校に地元企業が出向いて企業説明を行う取組は、長期的には地元企業への就職や定住につながる事が期待できる。

○良くないところ・改善が必要な部分

【事業継承・後継者不足への対応】

事業継承のために開設している相談窓口において、後継者不足の問題の実態を把握できている点は評価できる。しかしながら、後継者不足による廃業も既に発生していることから、市内の飲食店や企業における実態をふまえながら、PRの充実も含めた効果的な施策の検討・実施が必要である。

【教育・保育分野における人材不足への対応】

産業振興や暮らしやすいまちづくりに多面的に取り組む必要があるため、商工農業における後継者不足・人材不足に限定することなく、例えば教育分野や保育分野における人材不足にも市として対応していくことが望ましい。

【若者の地元就職につながる企業誘致等】

若い人材の確保や定住を図るため、例えばIT関連企業の誘致等、若者の地元就職につながるような取組が必要である。

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

【施策 I】競争力ある企業活動に向けた支援と持続可能な商業の振興

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
起業・会社設立支援補助 金利用件数（累計）	-	0件	4件	7件			20件	B
目標値に対する達成率		0.0%	20.0%	35.0%				
企業立地件数（累計）	-	0件	1件	1件			3件	B
目標値に対する達成率		0.0%	33.3%	33.3%				
飲食店営業施設数(営業許 可施設数)	1,102 施設 (2018)	1,077 施設 (2019)	1,061 施設 (2020)	876 施設 (2021)			1,110施設	C
目標値に対する達成率		基準値未満	基準値未満	基準値未満				

KPIに対する 達成状況評価	起業・会社設立支援補助金利用件数（累計）
	2022年度は、3件の起業者を支援した。コロナ禍の影響が極めて大きかった2020年を除き、市内の創業意欲は引き続き高い状況にあり、今後も商工会議所や金融機関等と連携して創業者を支援していく。
	企業立地件数（累計）
	2022年度の企業立地件数は0件であったが、工場増設に伴う補助金認定や先端設備導入など企業の投資意欲は旺盛であった。コロナ禍やそれに起因する部品供給不足、原材料高騰など事業環境が目まぐるしく変化するなか、今後も市内への立地につなげられるよう補助制度等の周知や事業環境整備に努めていく。
※当該年度の達成状況、数値の変化要因等	飲食店営業施設数(営業許可施設数)
	飲食店営業施設数(営業許可施設数) について、2021年度は年間を通してコロナ禍の影響を著しく受けており、愛知県による感染防止対策協力金等の金融支援のほか、本市独自に地域振興券事業を実施するなど、消費喚起策を実施したが、前年度と比較して185件の減少（露店・キッチンカー等含む）となった。要因としては、売上低下に伴う経営難によるものや、コロナ禍における露店・キッチンカー等の出店機会の減少が考えられる。2022年度も、物価の高騰により事業者は厳しい経営環境に置かれており、引き続き、経済対策による事業者の支援が必要である。

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

【施策I】競争力ある企業活動に向けた支援と持続可能な商業の振興

①企業経営の支援

○主要な事業、取組

A. 企業立地・創業支援事業

(産業課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
設備投資に係る優遇措置や各種相談を通じて本市への企業立地を推進する。創業支援については、商工会議所や地域の金融機関と連携し創業者を支援するとともに、起業・会社設立支援補助金を実施し、雇用創出や地域の活性化を図る。					
○事業の自己評価、成果等					
先端設備等導入計画の認定件数は22件と大幅に増加したほか、起業・会社設立支援補助金については、3件を交付し創業者を支援した。また、昨年度に立ち上げた臨海部工業団地アクセス道路渋滞対策勉強会を2回開催し、行政・公安委員会・臨海部工業団地内企業が実施する渋滞対策について情報共有及び意見交換をすることができた。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	764 千円	3,579 千円	19,405 千円		

B. 産業振興会議運営事業

(産業課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
令和4年度に新たに立ち上げたもので、農商工の事業者や学識経験者等10名の委員で構成され、産業界の様々な問題や必要な施策等を議論・検討し、市長へ産業振興策を提言する。					
○事業の自己評価、成果等					
委員から出された意見を基に、働く人と、企業に対して、産業振興に繋がる短期、中期、長期の支援に取り組んでいくことで、半田に魅力ある企業が増え、最終的には「事業者の元気」で「半田市を元気にする」を目標とした。					
また、その目標を達成するため、短期的な取り組みとして、事業者を元気にする重要な要素の一つ、経営資源である「人材」に着目し、人材獲得のための分科会を立ち上げた。また、次世代を担う若い事業者の可能性を高め、新しい発想を持ってビジネスに挑む環境をつくるため、未来志向の勉強会を立ち上げた。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	—	207 千円	2,584 千円		

○その他の事業、取組

C. 商工業振興事業（半田商工会議所中小企業相談事業補助金）

(産業課)

○事業費 2022年度(R4決算額)	3,150千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	---------	---------	-----

D. 中小企業金融対策事業

(産業課)

○事業費 2022年度(R4決算額)	228,176千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	-----------	---------	-----

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

【施策 I】競争力ある企業活動に向けた支援と持続可能な商業の振興

②企業誘致の推進

○主要な事業、取組

A. 企業立地・創業支援事業

(半田市企業再投資促進補助金・高度先端産業立地奨励金)

(産業課)

○事業の概要（目的、実施内容）

本市に新規進出する企業に向けた高度先端産業立地奨励金や本市からの流出防止及び設備投資を促進する半田市企業再投資促進補助金等の優遇制度により、企業の事業拡大を支援する。

○事業の自己評価、成果等

企業再投資促進補助金については、設備投資が完了した1社に交付決定し、新たに2社の設備投資計画を認定した。企業の投資は社会経済状況に大きく左右されるが、積極的に相談を行うなど支援を引き続き行っていく。

○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	82,080 千円	250,000 千円	570,984 千円		

B. 工業団地造成事業

(産業課)

○事業の概要（目的、実施内容）

市内の工業用地は既存企業で埋まっており、企業進出や事業拡大には新たな工業用地が必要になるため、工業団地の造成により、企業誘致を推進する。

○事業の自己評価、成果等

石塚地区については、企業庁が実施する第1回用地造成事業審査会に必要な資料等を準備し、審査の結果、石塚地区を開発検討地区に位置付けることができた。今後は、第2回用地造成事業審査会に向け、審査要件を満たすための準備を関係機関と協議しながら円滑に行う必要がある。中億田地区については、工場立地に必要となる道路等の基盤整備を市が行うことを決定し、民間主導の開発を可能とする開発条例のほか、工場立地に係る敷地面積をを有効に活用できる緑地緩和条例を制定した。民間主導の開発となるため、区域内に隙間が生じる懸念がある。

○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	16,477 千円	22,895 千円	20,839 千円		

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

【施策I】競争力ある企業活動に向けた支援と持続可能な商業の振興

③持続可能な商業の振興

○主要な事業、取組

A. 中心市街地活性化支援事業

(産業課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
半田商工会議所まちづくり推進室のコーディネートの下、公共空間を活用し、事業者の自立的な活動により日常的で持続可能な中心市街地商業活性化を目指す。 中心市街地商業活性化にぎわい事業補助金及び中心市街地まちづくり支援事業補助金を交付する。					
○事業の自己評価、成果等					
商工会議所まちづくり推進室と連携し、チャレンジショップ事業の実施や、商店街等が実施する地域賑わいイベントの後方支援、知多半田駅ロータリーなどの公共空間を活用した賑わい創出の取組を行ったことで、中心市街地の商店街への集客や店舗を知っていただく機会を創出できた。また、若年層を巻きこんだ取組を行ったことで、若年層に中心市街地の商店街を知っていただく機会となった。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象 (地方創生推 進)
	3,658 千円	3,686 千円	3,800 千円		

B. 商業施設助成事業

(産業課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
都市が郊外化したことにより、中心市街地をはじめとする既存の商業地域の衰退が進みつつあるなか、魅力ある個店の展開を支援することで、商業の活性化と市民生活の向上を図るため、商業施設の内装工事にかかる費用を補助する。					
○事業の自己評価、成果等					
令和4年度は、物価の高騰や原材料の品不足、コロナの先行き不透明感等の影響を受け、申請数が見込みに対して少ない結果となった。今後は、コロナが緩和したことにより経済活動が活発化していくことを見込み、中心市街地（出店促進エリア）を意識し、さらなる情報発信、不動産事業者へのPRなどを行っていく必要がある。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象 (地方創生推 進)
	8,750 千円	3,453 千円	12,000 千円		

C. J R 半田駅前土地区画整理事業

(市街地整備課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
J R 半田駅前地区において、J R 武豊線の高架にあわせ土地区画整理事業を実施し、面整備と幹線道路等の整備による一体的な市街地を形成することで、住環境の向上と中心市街地の活性化に繋げる。					
○事業の自己評価、成果等					
地権者と移転交渉を行い、21件の物件移転契約を締結することができた。また、物件の移転と並行し、地区の南側を中心に宅地や道路施設整備などの区画整理工事を実施した。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	894,355 千円	1,121,519 千円	1,960,943 千円		

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

【施策I】競争力ある企業活動に向けた支援と持続可能な商業の振興

D. J R 武豊線連続立体交差化事業

(市街地整備課)

○事業の概要（目的、実施内容）

J R 武豊線を高架化し、9か所の踏切を除却することにより、12か所の交差道路を整備する。また、鉄道沿線に側道6路線を整備する。このことにより、東西交通の円滑化、駅へのアクセス向上及び沿線環境の保全を図る。

○事業の自己評価、成果等

高架側道整備事業について、一部の物件において、側道の用地取得の交渉が難航し、用地取得率100%には至らなかった。高架下空間活用については、関係各課と連携しながら、立地特性の整理、商圈調査、人流調査、事業者へのヒアリングなどの現況分析を実施した。

○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	612,360 千円	504,209 千円	502,103 千円		

○その他の事業、取組

E. 商工業振興事業

(商店街活性化事業費補助金・半田商工会議所中小企業相談事業補助金)

(産業課)

○事業費 2022年度(R4決算額)	4,150千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	---------	---------	-----

F. 知多半田駅前再開発ビル商業施設利用促進事業

(産業課)

○事業費 2022年度(R4決算額)	5.719千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	---------	---------	-----

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

【施策Ⅱ】農業の担い手づくりと持続的な農業経営基盤の構築

◎ 重要業績評価指標（K P I）の達成度と評価

指標	基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
認定新規就農者数 (累計)	-	2人	4人	5人			6人	A
目標値に対する達成率		33.3%	66.7%	83.3%				
新規集積面積（累計）	-	10.5ha	18.0ha	31.3ha			7.5ha	AA
目標値に対する達成率		140.0%	240.0%	417.3%				

K P I に対する 達成状況評価 ※当該年度の達成状況、数値の変化要因等	認定新規就農者数（累計）
	県やJ A、農業委員会等の関係機関と連携を図り、認定新規就農者を1名確保し、次世代の担い手を増やすことができた（認定新規就農者数：R2：2人 R3：2人）。就農に向けた新規相談を随時行っており、R4年度は13件の就農相談を受け、関係機関と連携し、次年度以降に新規就農者としてつながるように農地の斡旋・販路等の経営支援を行った。また、市独自の就農者向けパンフレットを活用し、農業大学等に配布し、本市で就農する魅力についてP Rを行った。学生からは多くの質問があり、半田市での就農に対し関心の高さを感じた。
	新たな取組として、愛知県酪農農業協同組合や畜産農家と連携し、4大学のリモート講座において半田の畜産のPRを行った結果、10名の学生が畜産農家のインターンシップに参加し、就農へつながる機会の創出を図った。
	新規集積面積（累計）
	農業者の高齢化や後継者不足等により耕作できなくなった農地を、耕作放棄地になる前に、新規就農者や意欲ある担い手等に斡旋することで、耕作放棄地の新規発生を抑止し、担い手の農地の集積化に繋げた。有脇地域においては、農地集積協力金事業を活用して、地域と一緒に農地中間管理事業による集積に取り組むことができた。引き続き、中間管理事業を進めていくことで、耕作放棄地の抑制と担い手への農地集積化の更なる促進に繋げていく。

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

【施策Ⅱ】農業の担い手づくりと持続的な農業経営基盤の構築

①担い手の育成・確保 / ②農業経営基盤の強化

○主要な事業、取組

A. 就農者支援事業

(産業課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
新規就農者に対して、農業次世代人材投資資金・新規就農者育成総合対策事業補助金を交付することにより、就農後の定着を図るもの。					
○事業の自己評価、成果等					
県やJA等の関係機関と連携を図り、認定新規就農者を1名確保した。また、新規就農者育成総合対策事業補助金を新たに2名に交付し、合計10名に補助金交付や就農状況確認を行い、就農後の定着を図った。（離農者0名）					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	11,625 千円	15,156 千円	22,200 千円		

○その他の事業、取組

B. 農業用施設一般維持修繕事業

(多面的機能推進事業)

(産業課)

○事業費 2022年度(R4決算額)	11,149千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	----------	---------	-----

C. 農業経営基盤強化資金利子補給事業

(産業課)

○事業費 2022年度(R4決算額)	438 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	--------	---------	-----

D. 農地集積推進事業

(産業課)

○事業費 2022年度(R4決算額)	331千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	-------	---------	-----

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

【施策Ⅱ】農業の担い手づくりと持続的な農業経営基盤の構築

③知多牛ブランド力の強化

○主要な事業、取組

A.地産地消普及事業

(産業課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
地場産業である知多牛をはじめ、農業及び農業施策をPRし、農業振興を図る。					
○事業の自己評価、成果等					
知多牛提供店舗や生産者紹介などを掲載した知多牛パンフレットを改訂し、市内施設等に設置することで知多牛の地産地消の普及を図った。また、第17回食育推進全国大会に知多牛PRブースへの出展、半田市酪農組合協力のもとフジテレビめざましじゃんけんプレゼントへの提供を行い、市外の方へもPRを強化した。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	1,466 千円	2,200 千円	3,386 千円		

B.シティプロモーション推進事業

(企画課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
本市の都市イメージや認知度の向上を図るとともに、市民のまちへの愛着や誇りの醸成を図り、本市のファンを増やし、定住人口の獲得を目指す。 情報発信の事業では、市報で知多牛の特集記事を組むとともに、西三河地域を対象にした情報誌「chao」においても知多牛の紹介記事を掲載した。また、地元への愛着醸成のための事業として、市内の牧場を見学するツアーを開催した。					
○事業の自己評価、成果等					
情報発信として、市報のほか西三河地域の情報誌にも知多牛の特集記事を掲載することにより、市内外に向けて広く知多牛ブランドのPRを行うことができた。また、牧場見学ツアーでは、定員の10倍を超える応募があり、参加者に対しては生産者の想いを直接届けられる機会となった。これらの取組をとおして、知多牛ブランドの認知度やブランドイメージの向上を図った。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象 (地方創生推 進)
	4,676 千円	4,459 千円	5,000 千円		

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

【施策Ⅲ】就労の支援と勤労者福祉

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
Uターン者数（人／年）	890人	808人	822人	934人			1,000人	B
目標値に対する達成率		基準値未満	基準値未満	40.0%				
市内の高校を卒業して就業する者のうち市内に本社を設置する企業への就職率	16.6%	11.7%	11.7%	11.9%			25.0%	C
目標値に対する達成率		基準値未満	基準値未満	基準値未満				

KPIに対する 達成状況評価	Uターン者数（人／年）	市外在住者向けのアウトプロモーションとして、専用サイト「はんだで暮らす」による情報発信等を実施した。結果として、県内在住者のUターン者数が増加したことにより、前年度実績値や基準値を上回った。 引き続き市外在住者に向けて、地元で働くことや暮らすことの魅力をPRしていく。また、若い世代（39歳以下）のUターン者数は676人であり、全体の約72%と大半を占めていることから、市内在住者に対しても、特に学生を含む若い世代が地元へ愛着をもてるような取組も併せて実施していく。
	市内の高校を卒業して就業する者のうち市内に本社を設置する企業への就職率	農商工の専門科3校を令和5年3月に卒業し、就職した者420人のうち、半田市が本社の企業へ就職したのは50人で前年度比0.2ポイント増の11.9%であった。 引き続き、学生と企業との協働事業の実施や商工会議所との連携による地元企業研究フェア等を通じて市内企業との接点を多く作っていく。また、なかなか就職率が伸びない状況であり、高校の進路指導の教員や高校生へヒアリングを行うなど、状況把握を行う必要がある。

①就労支援 / ②勤労者福祉

○その他の事業、取組

A.雇用対策事業

(産業課)

知多地域学生就職情報センターが主催する「るびあん地元企業研究フェア」の開催に合わせ、適性検査や個人相談を実施。勤労者団体（愛知県勤労者福祉協議会知多支部）への補助金。

○事業費 2022年度(R4決算額)	303千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	-------	---------	-----

B.中小企業勤労者福祉サービスセンター事業

(産業課)

○事業費 2022年度(R4決算額)	8,408千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	---------	---------	-----

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（基本目標）

基本目標 2 市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる

基本的方向

- 本市の歴史や文化に育まれた地域資源を活用するとともに、市民と市外の人との積極的な交流を促し、交流人口や関係人口の拡大を目指します。
- 隣接市に中部国際空港が立地する条件とリニア中央新幹線開通を見据え、インバウンド誘客を推進します。

【基本目標における数値目標の実施状況】

指標	基準値 (2018)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
観光入込客数（人／年）	168万人	167万人	56万人	79万人	134万人			183万人	C
目標値に対する達成率			基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿				

市内全体評価

※取り組みに対する全体評価、
基本目標における数値目標に
対する達成状況、今後の課題等

「山車・蔵・南吉・赤レンガ」を象徴とする、本市の歴史や文化に根差した地域資源を活用し、観光振興を図った。




新型コロナウイルス感染症が収束傾向となり、臨時休館していた一部の市内観光施設の再開や、半田運河CanalNightなどのHOTORIイベント、市民盆踊り大会、ごんの秋まつり(彼岸花)といった観光イベントを再開したことに伴い、人の移動が戻り始め、指標である観光入込客数については前年度比70%増となったものの、基準値であるコロナ前の水準までに達していない状況である。

また、名鉄とタイアップした「いいかも半田キャンペーン」の通年実施や半田めぐりんMAPデジタル等による、日常的な誘客と回遊の促進を図ったほか、観光関係事業者への支援策として、物産品オンライン販売サイトを運営する中、国の臨時交付金を活用して、20%割引・送料無料のキャンペーンを2回実施し、観光土産品等の物産品の販売促進及び商品の魅力を広くPRすることができた。

今後は、デジタル社会の進展に即して、デジタル技術を活用したプロモーションの展開を強化していく。

知多半島最大のイベントである「はんだ山車まつり」は、令和5年10月の開催に向けて、実行委員会を立ち上げて、新型コロナウイルス感染症の第5類への移行や令和5年の春祭りの開催状況に注視しつつ、イベント内容の検討や、資金確保等の準備を進めた。

本市の観光スポットである半田運河蔵のまちエリアにおいて、観光客の立ち寄り場所となる飲食店が減少している。飲食店の誘致は容易ではないが、JR半田駅前土地区画整理事業の新しいまちづくりと絡ませて、全庁的に取り組む必要がある。

有識者会議全体評価（意見・提言）											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">有識者会議全体評価</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> B  </td> </tr> <tr> <td>委員の内訳</td> </tr> <tr> <td>AA … 0人</td> </tr> <tr> <td>A … 0人</td> </tr> <tr> <td>B … 8人</td> </tr> <tr> <td>C … 0人</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">第2期総合戦略 各年度の評価</td> </tr> <tr> <td>・R3年度：B</td> </tr> <tr> <td>・R4年度：B</td> </tr> </table>	有識者会議全体評価	B 	委員の内訳	AA … 0人	A … 0人	B … 8人	C … 0人	第2期総合戦略 各年度の評価	・R3年度：B	・R4年度：B	<p>○良いところ・伸ばしていくべき部分</p> <p>【コロナ禍、アフターコロナの取組状況】 コロナ禍の制限やアフターコロナの積極的な動きが求められる中であったものの、観光施策全般を着実に実施できている。</p> <p>【SNSを活用した情報発信】 観光SNSのフォロワーが増加しており、SNSを活用して効果的な情報発信を行っている。</p> <p>○良くないところ・改善が必要な部分</p> <p>【観光資源の高付加価値化、質の向上】 従来からの観光入込客数のような数量的目標とそれに基づく取組の実施のほか、今後は観光の質を重視した施策も展開していけるとよい。体験型サービスの創出による観光資源の高付加価値化等、観光客の満足度を高めるための取組やそれを測るための指標が必要である。</p> <p>【レンタサイクル】 レンタサイクルは設置場所の選定や運用が難しいこともあり、活用しきれていない状態にある。利用シーンに合わせた設置場所や運用方法の再検討・利用改善が必要である。</p> <p>【港湾の活用】 本市にある港湾を新たな観光資源としてとらえ、観光振興につながるような取組を検討できるとよい。</p> <p>【尾州早すし・食文化】 寿司店の廃業等により尾州早すしの提供数は減少傾向にある。市の食文化や醸造文化の周知にもつながることから、尾州早すしのPRにつながる取組を進められるとよい。</p>
有識者会議全体評価											
B 											
委員の内訳											
AA … 0人											
A … 0人											
B … 8人											
C … 0人											
第2期総合戦略 各年度の評価											
・R3年度：B											
・R4年度：B											

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 2 市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる

【施策I】地域資源を活用した観光とつながりづくりの推進

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
半田赤レンガ建物来館者数 (人/年)	519,403人	122,607人	197,570人	411,089人			550,000人	C
目標値に対する達成率		基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿				
店舗での尾州早すし提供数 (食/年)	650食	1,540食	1,450食	570食			10,000食	C
目標値に対する達成率		10.5%	9.5%	基準値未滿				
レンタサイクルの利用回数 (回/年)	2,349回	1,315回	1,069回	1,562回			3,300回	C
目標値に対する達成率		基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿				
ふるさと納税者数(人/年)	338人	921人	2,697人	4,967人			10,000人	B
目標値に対する達成率		6.4%	26.0%	51.0%				

KPIに対する 達成状況評価	半田赤レンガ建物来館者数(人/年)	新型コロナウイルスによる制限緩和により人流も回復の兆しが見え、計画していたイベントも中止することなく開催したほか、半田赤レンガ建物の内観を活かした展示会の誘致や、地元企業と連携した食事の新メニュー開発と新たな食の魅力の発信を図り、来場者数は前年度比108%増と大きく回復することができた。一方で、コロナ前の基準値にも達していないため、アフターコロナに向けた魅力の発信が必要である。
	店舗での尾州早すし提供数(食/年)	尾州早すしを提供してくれる主力店が令和4年5月に閉店したため、指標である尾州早すし提供数が大きく落ち込んだ。現在提供店は2店舗のみであるが、今後、増加する見込みはない状況である。
	レンタサイクルの利用回数(回/年)	新型コロナウイルスによる制限緩和により人流の回復に伴い、前年度比46%の増加となった。一方で、コロナ前の基準値にも達していないため、貸出拠点の増加などアフターコロナに向けたサービス向上が必要である。
	ふるさと納税者数(人/年)	寄附受付や返礼品の掲載を行うポータルサイトを新たに2社追加するとともに、関東及び関西エリアへのPRのため、SNSにて在住エリア等のターゲットを絞った広告を行った。これらの取組がふるさと納税者数の増加につながり、県外在住者を含む多くの人に本市の魅力のPRするきっかけとなった。
	※当該年度の達成状況、数値の変化要因等	

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 2 市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる

【施策 I】地域資源を活用した観光とつながりづくりの推進

①観光資源の充実と観光客の満足度向上 / ②回遊性の向上 /
③交流の促進と関係人口の拡大

○主要な事業、取組

A.観光振興事業

(観光課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
半田の観光をより一層PRし、観光客の誘客や知名度を向上させるとともに、地域経済の活性化を図るため、いいかも半田キャンペーン推進事業、食の観光推進事業、観光客回遊促進事業、新美南吉生誕110年観光PR事業、物産品等オンライン販売促進事業ほか各種の観光振興施策を実施する。					
○事業の自己評価、成果等					
ウイズコロナ期の観光推進として、新美南吉を起点とした観光プロモーション事業や、すしのまち半田のブランディング事業、通年のいいかも半田キャンペーンの実施等により日常的な誘客の向上を目指した結果、観光入込客数は前年度より増加した。また、物産品等オンライン販売促進事業の実施により、半田市の観光物産品のPRをするとともに、事業者の販売を支援することができた。ただし、観光入込客数は、コロナ禍以前の水準には達していないため、アフターコロナに向けた観光推進の取組が必要である。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象 (地方創生推進)
	33,920 千円	52,513 千円	30,812 千円		

B.半田運河活性化推進事業

(観光課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
半田運河の景観や歴史・文化を活かしたイベントを通して、半田運河の認知度の向上と、賑わいの創出を図るため、半田運河HOTORI brunch、CanalNight、萬三の白モッコウバラ祭、市制85周年記念イベントの開催とPRを実施する。					
○事業の自己評価、成果等					
半田運河Canal Nightや85祭などの大型集客イベントの開催や、新型コロナウイルスの影響により閉館していたミツカンミュージアムの開館等により、新型コロナウイルスの影響を受けながらも、半田運河周辺の観光入込客数は238,063人となり、前年度比66%増とすることができた。また、HOTORI brunchや半田運河の鯉のぼり、萬三の白モッコウバラ祭のイベント開催により、市民や観光客に広く運河の魅力発信を行ったほか、新たに運河周辺マップを製作・配布することで、来訪者の利便性の向上を図ることができた。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	5,679 千円	18,561 千円	15,011 千円		

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 2 市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる

【施策 I】地域資源を活用した観光とつながりづくりの推進

C. 知多半島広域観光推進事業

(観光課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
多様な観光資源の魅力の発信やスケールメリットをいかしたPRを行うことで知多半島への観光客の誘客、滞在及び回遊を促進するため、知多半島観光圏協議会の構成団体として負担金を支出し、協議会による各種の広域観光振興事業を推進する。					
○事業の自己評価、成果等					
ジブリパークの開園に合わせて、知多半島のおもしろふしぎを伝えるWEBページの開設や、リーフレットの特集ページ追加など広域での誘客を図った。また中部国際空港の発着地となる地域のケーブルテレビ局と連携し誘客動画を放映するなど、新たな情報発信によるPRを図った。 また、新型コロナウイルスによる制限の緩和によりPR出展の機会が増加し、県内のイベントやパーキングエリアなどに加え、川島ハイウェイオアシスや、ツーリズムエキスポジャパン2023、東京都庁全国観光PRコーナーなど、県外にも積極的に出展し、知多半島の魅力をPRできた。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	856 千円	856 千円	846 千円		

D. 半田赤レンガ建物管理運営事業

(観光課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
半田赤レンガ建物の歴史と文化財的価値の発信を通して、認知度向上と来訪者増加に伴う消費額の増加を図るため、民間のノウハウを活用した指定管理者制度を活用した、カフェ、ショップ、常設展示室、貸室の運営、誘客イベントの開催、建物の維持管理を行う。					
○事業の自己評価、成果等					
「カブトビールフェスタ」、「ドイツフェスティバル」等の集客力のある大型イベントを再開することができ、年間来場者数は前年度比108%増と大きく回復することができた。また、ジブリパーク開園に合わせて、シベリアの常時販売を開始し、ジブリパークの来場者への誘客PRを図ることができた。貸館においては、全国で初の開催となる京都嵐山オルゴール博物館の展示会を誘致し、市内外へ赤レンガ建物の魅力をPRすることができた。さらに、国の補助事業を活用し、赤レンガの新たな看板商品となる知多和牛のローストビーフ丼を開発し、地元企業との連携強化と認知度の向上を図ることができた。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	64,717 千円	66,931 千円	64,244 千円		

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 2 市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる

【施策 I】地域資源を活用した観光とつながりづくりの推進

E. シティプロモーション推進事業

（企画課）

○事業の概要（目的、実施内容）

本市の都市イメージや認知度の向上を図るとともに、市民のまちへの愛着や誇りの醸成を図り、本市のファンを増やし、定住人口の獲得を目指す。

西三河地域を対象にした情報誌「chao」にて本市の観光ルートの紹介記事を掲載したほか、県内在住の若い世代に向けて、観光分野を含む本市のPR動画を動画配信サイトTVerにて配信した。また、「はんだの魅力発見ツアー」では山車の組み上げを見学するツアーを開催するなど、単なる情報発信に留まらない取組も併せて実施した。

○事業の自己評価、成果等

西三河地域といった地域や世代等の対象を絞った情報発信を行うことができた。また、山車の組み上げの見学ツアーでは、市外からの応募や参加者もあり、本市を代表する山車文化の魅力発信や令和5年度のはんだ山車まつり開催に向けての機運醸成を図った。

○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象 (地方創生推進)
	4,676 千円	4,459 千円	5,000 千円		

○その他の事業、取組

F. 観光サイン設置事業

（観光課）

○事業費 2022年度(R4決算額)	540 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	--------	---------	-----

G. 半六庭園管理運営事業

（観光課）

○事業費 2022年度(R4決算額)	698 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	--------	---------	-----

H. 社会体育振興事業

（スポーツ課）

○事業費 2022年度(R4決算額)	17,751 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	-----------	---------	-----

I. 半田運河ベンチ設置事業

（土木課）

○事業費 2022年度(R4決算額)	1,232 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	----------	---------	-----

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 2 市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる

【施策Ⅱ】インバウンドの拡大に向けた取組みと効果的な情報発信

◎ 重要業績評価指標（K P I）の達成度と評価

指 標	基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
観光施設（半田赤レンガ建物、新美南吉記念館、ミツカンミュージアム、國盛 酒の文化館）の外国人観光入込客数（人／年）	-	694人	328人	632人			1,200人	B
目標値に対する達成率		57.8%	27.3%	52.7%				
市及び観光協会が発信している観光SNSのフォロワー数（人／年）	11,760人 (2018)	20,138 人 (2020)	24,656 人 (2021)	30,307 人 (2022)			20,000人	AA
目標値に対する達成率		101.7%	156.5%	225.1%				

K P I に対する 達成状況評価	観光施設（半田赤レンガ建物、新美南吉記念館、ミツカンミュージアム、國盛 酒の文化館）の外国人観光入込客数（人／年）
	新型コロナウイルスの感染が収束する傾向の中で、外国人観光客が少しずつ戻り始めたことにより、年間の外国人入込客数はコロナ前の数値に近づいてきた。
	市及び観光協会が発信している観光SNSのフォロワー数（人／年）
※当該年度の達成状況、数値の変化要因等	いいかも半田Instagramの投稿等において、イベント、季節ごとの情報提供や分かりやすい内容に心がけた他、イベント開催の復活したことなどにより目標値を達成するとともに、フォロワー数を前年度比で23%増加することができた。

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 2 市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる

【施策Ⅱ】インバウンドの拡大に向けた取組みと効果的な情報発信

①インバウンドの掘り起こし / ②インバウンドの受入強化 / ③情報発信力の強化

○主要な事業、取組

A. 観光振興事業

（観光課）

○事業の概要（目的、実施内容）

半田市観光協会が、アメリカ人シェフに半田市の醸造品を使用したグルメの試食やワークショップを紹介し、意見を聞き取るなど、半田の醸造・発酵文化のインバウンドコンテンツとしての可能性を探った。また、半田市内の観光施設等8箇所に外国人の利用も意識した無料WIFI環境を提供したほか、多言語観光情報サイト「Guidoor（ガイドア）」に半田市の観光情報を掲載し、多言語による情報発信を行った。

○事業の自己評価、成果等

中部国際空港が隣接する常滑市に立地するものの、半田市へアクセスする公共交通の利便性は低いなど、外国人の人流を引き寄せることは容易ではない。半田市に目掛けて来てもらうためには、魅力的で満足度の高い外国人向けの観光コンテンツを提供する必要がある、現在はそのニーズを探っている状況である。

○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象 (地方創生推進)
	33,920 千円	52,513 千円	30,812 千円		

B. 知多半島広域観光推進事業

（観光課）

○事業の概要（目的、実施内容）

愛知県が進める常滑港へのクルーズ船誘致活動に知多半島観光圏協議会も参加し、外国船社・代理店を対象とした船社訪問や招請ツアーの実施において、半田市、知多半島の観光コンテンツの魅力についての意見を外国船社等から聞き取るなど、インバウンドニーズの把握に務めた。また、多言語表記の観光PRカード（名刺サイズ・多言語サイトのQRコード付）の作成及び中部国際空港等への設置により、インバウンド客の旅ナカにおける観光情報取得環境の整備を推進したほか、知多半島観光圏協議会が運営するホームページ「タビチタ」の多言語（6言語）対応し、インバウンド向けの情報発信力を強化した。

○事業の自己評価、成果等

アフターコロナに向けた不特定のインバウンド向けの情報発信を強化した。今後は、SKY EXPOでの国際会議の参加滞在者が見込まれるため、これらを対象とした観光需要のニーズの取り込みを探っていく必要がある。

○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	856 千円	856 千円	846 千円		

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（基本目標）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

基本的方向

- 妊娠から出産、子育てまで切れ目のない支援により父母の不安や負担の軽減を図るとともに、仕事と子育ての両立を支援します。
- 子どもたちが、まちの歴史や文化を理解し、ふるさとに愛着と誇りを持ち続けられるとともに、確かな学力を身につけ、豊かな心や健やかな体を育むための教育を推進します。
- 若い世代が定住しやすい環境を整備します。

【基本目標における数値目標の実施状況】

指 標	基準値 (2018)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
合計特殊出生率	1.37 (2017)	1.45 (2018)	1.31 (2019)	1.40 (2020)	1.26 (2021)			1.80 (2023)	C
目標値に対する達成率			基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿				
若い世代（※）の転入者数 ※39歳以下の人	4,419人	4,309人	3,501人	3,482人	3,917人			5,500人	C
目標値に対する達成率			基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿				
若い世代（※）の転出者数 ※39歳以下の人	3,781人	4,069人	3,893人	3,950人	4,044人			3,700人	C
目標値に対する達成率			基準値超過	基準値超過	基準値超過				

庁内全体評価

※取組に対する全体評価、
基本目標における数値目標に
対する達成状況、今後の課題
等

若い世代に選ばれるまちとなるよう、子育て支援等の各種施策に取り組んだものの、合計特殊出生率は前年度からさらに低下し、若い世代の転入出は3年連続の転出超過となった。




これまで本市では、子育て支援施策として、子ども医療費助成事業を始めとした子育て世帯への経済的な支援を行うとともに、放課後児童クラブや放課後子ども教室、地域型保育事業など、仕事と子育ての両立のための支援等を実施してきた。

また、令和4年度には子育て支援課と保健センターの組織を改編し、母子保健と家庭相談と発達支援を一つの課で実施する体制を整え、子どもに関する総合相談窓口を統合することで、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制の構築を図った。

これらと併せて、居住しやすい環境の整備や学校教育施策の充実等にも取り組んできた。

今後、出生率の低下や若い世代の転出超過を抑制するために、子育て世帯や若い世代のニーズを的確に把握するとともに、ライフステージにおいて居住場所を変えるようなイベント（就職、結婚、住宅購入等）に着目し、例えば雇用、産業分野（基本目標1）や良好な生活環境の確保（基本目標4）など、幅広い取組を検討し、実行していく。

それにあたっては、シティプロモーションの視点から、若い世代や子育て世帯へのPR手法の検証や職員の情報発信能力の向上等を併せて推進し、より有効なPR活動を継続的に行っていく。

有識者会議全体評価（意見・提言）					
<table border="1"> <tr> <td>有識者会議全体評価</td> </tr> <tr> <td>B </td> </tr> <tr> <td>委員の内訳 AA … 0人 A … 0人 B … 6人 C … 0人</td> </tr> <tr> <td>第2期総合戦略 各年度の評価 ・R3年度：A ・R4年度：B</td> </tr> </table>	有識者会議全体評価	B 	委員の内訳 AA … 0人 A … 0人 B … 6人 C … 0人	第2期総合戦略 各年度の評価 ・R3年度：A ・R4年度：B	<p>○良いところ・伸ばしていくべき部分 【子どもに関する総合窓口】 機構改革により発達支援に関する業務の一元化を図り、子どもに関する総合窓口を統合して妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制を整備したことは、大変有効な取組であった。この窓口を機能させ、関係部署とも連携しながら、柔軟かつ細やかな支援につなげていけるとよい。</p> <p>○良くないところ・改善が必要な部分 【子育て世帯、若い世代の意識や行動様式の把握・分析】 K P I の「これからも半田市に住み続けたいと思う市民の割合（39歳以下）」は基準値を下回り、低下し続けている。子育て世帯や若い世代における意識や行動様式の把握につながるような調査・分析に取り組む必要がある。 また、子育て世帯や若い世代に対して施策の周知が十分ではない、または、魅力的な施策が打ち出せていない可能性がある。前述の調査や分析をふまえたうえで、より効果的な取組の検討やP Rの充実を図っていくことが重要である。</p> <p>【待機児童】 保育所等における待機児童の解消にあたっては、保育士不足への対応や保育の質の確保といった課題がある。これらの課題に対する取組の検討が必要である。</p>
有識者会議全体評価					
B 					
委員の内訳 AA … 0人 A … 0人 B … 6人 C … 0人					
第2期総合戦略 各年度の評価 ・R3年度：A ・R4年度：B					

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる 【施策 I】出産・子育てのしやすい環境の整備

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指標	基準値 (2019)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
保育所等の 待機児童数	0人	0人	0人	0人			0人	B
4月1日時点	9人	0人	16人	5人			0人	
10月1日時点		100.0%	基準値超過	44.4%				
目標値に対する達成率(10月1日時点)								
放課後児童クラブ利用者数 (人/年)	931人	1,029人	1,030人	1,074人			1,200人	B
目標値に対する達成率		36.4%	36.8%	53.2%				
理想とする子どもの人数がいる または持つ予定である若い世代 (女性)の割合	77.3%	61.3%	58.3%	52.1%			80.0%	C
		(2021調査)	(2022調査)	(2023調査)	(2024調査)	(2025調査)		
目標値に対する達成率		基準値未満	基準値未満	基準値未満				

KPIに対する 達成状況評価 ※当該年度の達成状況、 数値の変化要因等	保育所等の待機児童数 子育て世代の女性の就業率が上昇したことなどに伴い、0歳児クラスの入所児童数が増加し、結果として年度途中で待機児童が発生した。引き続き、令和5年度からの花園保育園の民営化を皮切りに、民間保育所の拡充を進めるとともに、「半田市子ども・子育て支援事業計画」や、「半田市保育園等公民連携更新計画」に基づき、民間保育所と公立保育所が連携し、さらなる低年齢児の受け入れ枠の拡大や多様化する保育ニーズの対応に努める。
	放課後児童クラブ利用者数 今後も共働き世帯等の増加に伴う利用希望児童数の増加が見込まれるため、引き続き、ニーズに即した受け皿の確保及び環境整備に努める。
	理想とする子どもの人数がいるまたは持つ予定である若い世代（女性）の割合 前年度からさらに割合は低下した。新型コロナウイルスや国内外の景気、経済状況等の先行きが見通せない中で、調査対象者が子どもを産み育てていくことへの不安を感じていることなどが低下の一因として考えられる。 今後も、多様化する教育・保育ニーズに対応しながら、妊娠から出産、子育てまでの切れ目のない支援を実施するとともに、若い世代への多様な支援策を検討して実行していく。

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策 I】出産・子育てのしやすい環境の整備

① 出産・子育てへの経済的応援

○ 主要な事業、取組

A. 子ども医療費助成事業

(国保年金課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
子どもに対して医療費を助成することにより、保護者の経済的な負担を軽減し、適切に医療を受ける機会の確保、健康の保持・増進等の福祉の向上を図る。ただし、中学生及び高校生等の通院費は自己負担分の2/3を助成する。					
○事業の自己評価、成果等					
受給資格者が医療費による経済的な負担等の影響を受けることなく、必要とする医療を適切に受け機会を確保した。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	560,921 千円	537,339 千円	539,080 千円		

B. 母子健康増進事業

(子育て相談課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
すべての子どもが心身ともに健やかに生まれ育つことを主目的とし、不妊に悩む夫婦に対し、不妊治療費に要する費用を助成することにより、その経済的な負担の軽減を図る。					
○事業の自己評価、成果等					
不妊治療への助成をすることで、特に若い世代夫婦への経済的負担を軽減させ、不妊治療の促進ができた。その結果、妊娠に至った家庭もあり長期的には少子化対策へ寄与すると考える。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	6,745 千円	5,343 千円	4,718千円(※)		

※令和5年度から、不妊治療費助成事業は別事業として計上

C. 放課後児童健全育成事業

(子ども育成課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
半田市放課後児童健全育成事業補助金（入所児童奨励費）により、半田市が委託する放課後児童クラブを利用する児童の保護者に対し、保育料を減免する場合の経費を補助するもの。					
○事業の自己評価、成果等					
保護者の経済的負担の軽減を図るとともに、併せて事業実施団体の運営の改善に寄与することができた。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	260,097 千円	278,782 千円	287,671 千円		

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策 I】出産・子育てのしやすい環境の整備

○その他の事業、取組

D.半田市遺児手当支給事業

(子ども育成課)

○事業費 2022年度(R4決算額)	19,490千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	----------	---------	-----

②子どもを産み育てるサポート体制の充実

○主要な事業、取組

A.子育て支援センター事業

(子ども育成課)

○事業の概要（目的、実施内容）				
子育て支援センターにおける地域子育て支援拠点事業と乳幼児一時預かり事業の実施により、子育て・子育て支援の推進を図る。				
○事業の自己評価、成果等				
新型コロナウイルス感染症感染拡大防止を図りながら、事業を継続実施し、安心して利用いただくことができた。また、子育て支援団体等と情報共有を図り、地域での子育て支援の推進に寄与することができた。				
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金
	25,019 千円	27,014 千円	28,834 千円	対象外

○その他の事業、取組

B.放課後子ども教室推進事業

(子ども育成課)

令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止したが、令和4年度より規模を縮小して再開。				
○事業費 2022年度(R4決算額)	1,387千円	○デジ田交付金	対象外	

C.妊産婦家庭サポート事業

(子育て相談課)

○事業費 2022年度(R4決算額)	141 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	--------	---------	-----

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅰ】出産・子育てのしやすい環境の整備

③仕事と子育ての両立支援

○主要な事業、取組

A.放課後児童健全育成事業

(子ども育成課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
保護者が仕事等により昼間家庭に居ない小学生に、放課後の適切な遊びと生活の場を提供するため、放課後児童クラブの運営を民間事業所に委託するもの。					
○事業の自己評価、成果等					
放課後の児童の居場所を確保し、児童の健やかな成長に寄与するとともに、保護者の子育てと仕事の両立支援を図ることができた。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	260,097 千円	278,782 千円	287,671 千円		

B.放課後児童クラブ施設整備事業

(子ども育成課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
長期休業期間中のみ預かりを求める声に応えるため、施設整備を実施するもの。					
○事業の自己評価、成果等					
令和5年度から長期休業期間中に限定した預かり事業を実施するための環境整備を行うとともに、事業所及び実施場所となる小学校と必要な調整を行うことができた。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	0 千円	4,271 千円	0 千円		

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる
【施策 I】出産・子育てのしやすい環境の整備

C.地域型保育事業

(幼児保育課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
<p>子ども・子育て支援法の規定により地域型保育事業施設に地域型保育給付費等を支給し、半田市小規模保育事業所延長保育事業費補助金交付要綱に規定する事業の実施に要する経費に対し、補助金を交付する。3歳未満児については、年度途中から待機児童が発生しており、地域型保育事業を実施し、保育の必要性のある3歳未満児の受け入れを行うことを目的とする。</p>					
○事業の自己評価、成果等					
<p>子育て世代の女性の就業率が上昇傾向であり、0歳児クラスの入所児童数が利用定員を上回った。昨年度に比べ人数は減少したものの、結果として年度途中に待機児童が発生した。地域型保育事業については、年間を通じて入所率は高く、保育の受け皿として十分機能しているが、依然として待機児童解消には至っていない。</p> <p>また、原油価格・物価高騰等に伴い給食材料費が高くなることによる給食の質の低下を防ぐため、「保育所等給食費軽減対策補助金」の交付を行うことで、保護者の負担なく給食の質を維持することに寄与した。</p>					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	185,125 千円	156,799 千円	186,096 千円		

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅱ】健やかな育ちと学びにより子どもの確かな成長を支援

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指標	基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
DT2（※）種混合予防接種の接種率 ※ジフテリア及び破傷風	85.0% (2018)	80.5% (2020)	81.9% (2021)	83.5% (2022)			90.0%	C
目標値に対する達成率		基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿				
学校が楽しいと回答している児童・生徒の割合	88.9% (2018)	88.2% (2020)	88.7% (2021)	88.8% (2022)			90.0%	C
目標値に対する達成率		基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿				
コミュニティ・スクールの活動回数 (1校あたりの平均回数/年)	-	31回	47回	56回			50回	AA
目標値に対する達成率		62.0%	94.0%	112.0%				

KPIに対する 達成状況評価	DT2（※）種混合予防接種の接種率 ※ジフテリア及び破傷風
	DT2種混合予防接種の接種率については、継続的な接種勧奨により年々増加しているが、目標値に達していないため、引き続き効果的な接種勧奨に努める。
	学校が楽しいと回答している児童・生徒の割合
	学校生活アンケートで「学校が楽しい」と回答した児童・生徒の割合は、昨年度に比べて若干改善することができた。今後も引き続き、魅力的な授業づくり、学校運営等に努める。
※当該年度の達成状況、数値の変化要因等	コミュニティ・スクールの活動回数
	コロナにより活動が制限される中、学校と地域が連携・協働し、米作り体験授業（田植え、稲刈り等）や交通教室、家庭科の裁縫指導、ホタルの放流など、多彩なコミュニティスクール活動に取り組んだ。

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅱ】健やかな育ちと学びにより子どもの確かな成長を支援

①子どもの健康の維持・増進

○主要な事業、取組

A.妊婦・産婦・乳幼児健康診査事業

(子育て相談課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
妊産婦、乳幼児の疾病や障がいの早期発見・早期治療のために各種健康診査を実施する。さらに、保護者の育児面への不安や家庭環境等を把握し、個々の家庭に適した保健指導やサービスにつなぐ。					
○事業の自己評価、成果等					
妊産婦健診では令和4年度から新たに新生児聴覚検査の助成も開始し、聴覚異常の早期発見・治療に対する経済的負担軽減を行った。乳幼児健診では、疾病や障がいなどで配慮が必要な児には家庭訪問を実施するなど全数把握に努めた。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	108,971 千円	101,607 千円	113,430 千円		

B.予防接種事業

(子育て相談課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
予防接種法に基づき、定期予防接種を実施するほか、接種機会を逃すことのないよう、接種勧奨を行い、疾病の発生及びまん延を予防し、個人の健康増進と公衆衛生の向上を図ることを目的とする。					
○事業の自己評価、成果等					
対象者へ勧奨文書やパンフレットを配布、個別郵送することにより、効果的な接種勧奨を行うことができ、疾病のまん延を予防し、市民の健康が維持された。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	303,500 千円	256,301 千円	290,770 千円		

②地域とともにふるさと半田を大切にする子どもの育成

○主要な事業、取組

A.コミュニティスクール推進事業

(学校教育課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
地域と学校が互いにパートナーとして「連携・協働」を行い、地域と学校の協働体制を構築し、教育活動等の活性化を図る。					
○事業の自己評価、成果等					
コロナにより活動が制限される中、学校と地域が連携・協働し、米作り体験授業（田植え、稲刈り等）や交通教室、家庭科の裁縫指導、ホタルの放流など、特色ある学校づくりを進めることができた。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象 (地方創生推進)
	6,059 千円	6,280 千円	7,107 千円		

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅱ】健やかな育ちと学びにより子どもの確かな成長を支援

○その他の事業、取組

B.新美南吉読書感想画コンクール

(図書館)

○事業費 2022年度(R4決算額)	28千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	------	---------	-----

C.副読本、郷土読本「はんだ」の活用

(学校教育課)

身近な地域の題材を使って副読本を作成し、副教材として使用することにより、授業（地域学習）を通じて地域への理解を深める。

○事業費 2022年度(R4決算額)	198千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	-------	---------	-----

③キャリア教育の推進と知徳体のバランス豊かな子どもの育成

○主要な事業、取組

A.学校生活支援事業

(学校教育課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
学校生活で、特別な支援を必要とする児童生徒に適切に対応するため、会計年度任用職員を配置し、学校生活の安定を図る。					
○事業の自己評価、成果等					
学校生活支援員や特別支援学級補助員を適切に配置するとともに、特別支援教育相談員による巡回指導等を行ったことにより、集団生活になじめない児童生徒等の安定した学校生活に資することができた。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	84,815千円	107,895千円	121,042千円		

B.いじめ・不登校対策事業

(学校教育課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
いじめ・不登校対策として、児童生徒の心の安定や学校復帰等を促すため、適応指導教室の運営や学校におけるカウンセリング等の相談事業を実施し、いじめ・不登校のない学校作りを進める。					
○事業の自己評価、成果等					
教育相談員を増員するとともに、支援関係機関との連携・協力を緊密に行ったこと等により、支援を必要とする児童生徒の心の安定や課題の解決に資することができた。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	42,787千円	45,976千円	47,108千円		

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅱ】健やかな育ちと学びにより子どもの確かな成長を支援

C. 小学校情報機器整備事業 / 中学校情報機器整備事業

(学校教育課)

○事業の概要（目的、実施内容）

国のGIGAスクール構想に則り、1人1台端末の整備等教育ICT環境の整備を行う。

○事業の自己評価、成果等

国のGIGAスクール構想に基づき、小中学校における情報機器や通信ネットワーク環境の整備・運用、学習支援ソフトの配備等を適切に進めることができた。また、学校現場の困りごとを聞いたり、タブレット端末等のさらなる有効活用等について話し合う場として、令和4年度に未来創造協議会等を設置したことにより、より充実した学習環境を構築することができた。

○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	236,692 千円	256,975 千円	267,404 千円		

○その他の事業、取組

D. キャリアスクールプロジェクト推進事業

(学校教育課)

生徒が職業の魅力を感じ、望ましい勤労観や職業観を醸成できるよう、職場体験学習を核とした取組を行い、系統的なキャリア教育を推進する。

○事業費 2022年度(R4決算額)	270 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	--------	---------	-----

E. キャリア教育推進事業

(学校教育課)

元気いっぱい・笑顔いっぱい・優しさいっぴいに伸びようとする子どもを育てる教育を推進するため、「幼保小中一貫教育HANDAプラン」に基づいた事業を実施する。

○事業費 2022年度(R4決算額)	—	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	---	---------	-----

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる 【施策Ⅲ】若い世代の定住を促進

◎ 重要業績評価指標（K P I）の達成度と評価

指 標	基準値 (2019)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
これからも半田市に住み続けたいと思う市民の割合（39歳以下）	52.8%	57.4%	52.3%	43.2%			70.0%	C
目標値に対する達成率	/	26.7%	基準値未滿	基準値未滿			/	/
半田市に好意的なイメージを持っている転入者の割合	39.0%	45.0%	32.1%	39.4%			60.0%	B
目標値に対する達成率	/	28.6%	基準値未滿	1.9%			/	/

K P I に対する 達成状況評価 ※当該年度の達成状況、数値の変化要因等	これからも半田市に住み続けたいと思う市民の割合 市民ライターによる市報での魅力発信や専用サイトでのPR、市内の産業・観光資源を知ってもらうためのツアー企画等、地元への愛着醸成につながる取組を実施したものの、指標としては前年度実績を下回る結果となった。本指標はまちに対する総合的な評価であるため、観光や産業分野のほか、子育てや生活環境といった幅広い分野での本市の魅力を発信できるよう取り組んでいく。
	半田市に好意的なイメージを持っている転入者の割合 転入者の見込まれる西三河地域を対象にした広報等、地域や世代といったターゲットを絞った情報発信を行い、本市の認知度や都市イメージの向上につなげた。こうした取組もあり、実績値としては前年度や基準値を上回り、一定の改善がみられた。

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅲ】若い世代の定住を促進

①居住しやすい環境の整備

○主要な事業、取組

A. 半田乙川中部土地区画整理事業

(市街地整備課)

○事業の概要（目的、実施内容）

乙川中部地区の土地区画整理を実施することにより、道路・水路・公園など公共施設の土地基盤を整備するとともに、土地利用の再編成を行い、良好な住環境の形成を図る。地区内には、本市の道路網の骨格となる都市計画道路3・3・21環状線が計画されており、早急な整備が望まれているため、あわせて整備を進める。

○事業の自己評価、成果等

跨線橋については、上部工として桁架設3径間、歩道橋1橋を施工できた。
今後、跨線橋の完成とともに国道247号の嵩上を実施するため、地元住民や臨海部の企業など関係者と調整を図り、環状線の早期全面供用開始を目指す。
物件移転補償については、交渉を続けている補償対象残り1件の契約を締結する必要がある。

○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	1,484,986 千円	1,346,024 千円	1,347,853 千円		

B. J R 半田駅前土地区画整理事業

(市街地整備課)

○事業の概要（目的、実施内容）

J R 半田駅前地区において、J R 武豊線の高架にあわせ土地区画整理事業を実施し、面整備と幹線道路等の整備による一体的な市街地を形成することで、住環境の向上と中心市街地の活性化に繋げる。

○事業の自己評価、成果等

地権者と移転交渉を行い、21件の物件移転契約を締結することができた。また、物件の移転と並行し、地区の南側を中心に宅地や道路施設整備などの区画整理工事を実施した。

○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	894,355 千円	1,121,519 千円	1,960,943 千円		

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅲ】若い世代の定住を促進

C.小学校区コミュニティ活動支援事業

(市民協働課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
自治区を始めとした地域組織が、複雑・多様化する地域課題を解決し、持続可能かつ効率的な運営をしていけるよう、小学校区単位での活動を目的とした協議組織の立ち上げ支援を通して、小学校区コミュニティ組織の構築を目指すもの。					
○事業の自己評価、成果等					
小学校区と自治区の区割りが入り混じる「成岩地区」の区長と小学校区コミュニティの必要性や行政が考える方向性を情報共有・意見交換する機会を持ち、次年度に向けた課題を把握することができた。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象 (地方創生推 進)
	575 千円	319 千円	1,005 千円		

D.はんだまちづくりひろば運営事業

(市民協働課市民交流センター)

○事業の概要（目的、実施内容）					
協働のまちづくりを推進するため、市民活動・ボランティア活動を行う団体等の相談事業、各種講座の開催、はんだまちづくりひろば登録団体と連携した交流の場の提供や情報収集・提供等を行い、団体活動の支援を行うもの。					
○事業の自己評価、成果等					
市民活動支援では、市民活動団体の情報発信力を強化するため、市内高校と協働して「市民活動団体向けInstagram講座」を開催した。また、コロナ禍で実施できていなかった「まちひろ交流会」を2回開催し、市民活動団体同士が知り合い協働の取組を始めるきっかけを創ることができた。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象 (地方創生推 進)
	383 千円	192千円	505千円		

E.市民活動助成事業

(市民協働課市民交流センター)

○事業の概要（目的、実施内容）					
市内で活動する市民活動団体が行う公益的な事業に対し、助成金を交付することにより、団体が行う事業を資金面で支援し、団体の自発的・自立的活動の促進や継続的な事業実施を目指すもの。					
○事業の自己評価、成果等					
市長公約により、「教育・子育て分野」のさらなる支援拡充への取組として、令和4年度からチャレンジ部門で「教育・子育て分野」における助成率を10分の9とするよう改善し、当該分野で2団体に交付することができた。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象 (地方創生推 進)
	1,433 千円	2,770 千円	6,084 千円		

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅲ】若い世代の定住を促進

○その他の事業、取組

F.コミュニティ環境整備助成事業 (市民協働課)

○事業費 2022年度(R4決算額)	4,988 千円	○デジ田交付金	対象 (地方創生推進)
-----------------------	----------	---------	----------------

G.地域環境整備事業 (市民協働課)

○事業費 2022年度(R4決算額)	1,168 千円	○デジ田交付金	対象 (地方創生推進)
-----------------------	----------	---------	----------------

H.公園管理事業 (都市計画課)

○事業費 2022年度(R4決算額)	145,628千円	○デジ田交付金	対象 (地方創生推進)
-----------------------	-----------	---------	----------------

②まちのイメージの向上

○主要な事業、取組

A.シティプロモーション推進事業 (企画課)

○事業の概要（目的、実施内容）

本市の都市イメージや認知度の向上を図るとともに、市民のまちへの愛着や誇りの醸成を図り、本市のファンを増やし、定住人口の獲得を目指す。

情報発信事業（専用サイトの運用等）、まちへの愛着を醸成するための事業（まちの魅力発見ツアー等）、ふるさと新発見事業を実施した。

○事業の自己評価、成果等

西三河地域を対象にした情報誌のインパクトある広報、若者世代などターゲットを絞った情報発信、地域資源をささえる「人」や「思い」を紹介する魅力発見ツアーを通して、市のPRと市民の愛着醸成に資することができた。また、ツアー募集倍率10倍を超えるイベント企画など、市としての生活環境のブランド価値の向上を図った。

○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象 (地方創生推 進)
	4,676 千円	4,459 千円	5,000 千円		

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（基本目標）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

基本的方向

- 畜産農家と住民との相互理解を深める中、臭気への環境対策を進め、良好な生活環境を確保します。
- 災害への備えを充実するなど、安心して安全な生活環境づくりを推進します。
- 市民がまちの歴史や文化にふれる機会を増やし、ふるさとに誇りや愛着の持てるまちづくりを進めます。
- 市民の日常的な健康づくりを促進するとともに、医療体制の充実に取り組みます。
- 国籍・民族等の異なる人々が互いの文化的な違いを認め、対等な関係のもとで共に生きていく社会の実現に取り組みます。

【基本目標における数値目標の実施状況】

指標	基準値 (2019)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2025)	達成度
これからも半田市に住み続けたいと思う市民の割合	57.8%	68.3%	72.5%	62.6%			75.0%	B
目標値に対する達成率		61.0%	85.5%	27.9%				

庁内全体評価

※取組に対する全体評価、基本目標における数値目標に対する達成状況、今後の課題等

快適な生活環境に関連して、長年の懸案事項となっている畜産臭気については、消臭資機材の使用や耕畜連携における堆肥の搬出等に取り組んだこともあり、3年連続で臭気指数の改善がみられる。

また、安心・安全なまちづくりという観点では、防犯対策として自動車ナンバープレート盗難防止ネジの取付キャンペーンや防犯灯の整備等を実施したが、愛知県全体で車両や車両関連機器の盗難増加等により、刑法犯発生件数が増加しており、当市も39件の増加となった。一方で、防災・災害対策については、水災害ハザードマップを使用したマイタイムライン作成講座の開催等により指標は向上した。

これらのほか、まちなかでアートを始めとした文化芸術に関する取組や、医療・健康分野の取組、多文化共生のための取組等を実施してきた。

「これからも半田市に住み続けたいと思う市民の割合」は、基準値は上回ったものの、前年度からは低下した。本指標は、生活環境の快適性やまちの安全性、医療体制の充実度や文化的側面など、様々な要因を総合したものであると考えられるため、様々な取組を幅広く進めていく必要がある。

特に、年代別で見ると、39歳以下における割合は43.2%（基本目標3_施策Ⅲ）であり、全世代の割合62.6%を下回ることから、特に若い世代へのアプローチが重要であるといえる。今後は、若い世代のニーズを的確に取り上げながら、より有効な施策を検討・実施し、それらの取組をシティプロモーションの一環としてPRしていく。

有識者会議全体評価（意見・提言）

有識者会議全体評価

A



委員の内訳

AA …	0人
A …	6人
B …	0人
C …	0人

第2期総合戦略
各年度の評価

・R3年度：	A
・R4年度：	A

○良いところ・伸ばしていくべき部分

【課題の把握、取組の実施と成果】

各施策における問題と課題を的確に把握し、取組を進めることで良い成果を上げられており、本目標である安全・安心なまちづくりにつなげられている。

【防災】

幅広い年代の住民が参加できる防災訓練等の取組を効果的に行うことにより、住民の防災意識を高めることができている。

【文化の継承、文化施設】

博物館での企画展「知多半島の化石」等の注目度の高い企画を実施できており、施設来館者の増加につながった。

○良くないところ・改善が必要な部分

【半田病院】

K P I の「半田病院における入院全体について『ほぼ満足である』以上の評価をした患者の割合」は、基準値を下回る結果となっている。新病院の開院を見据えながら満足度向上のための取組が必要である。

【防災】

防災分野においては、年齢を問わず住民の安全を図る必要があるため、高齢者等の要配慮者を対象とした避難計画の策定が必要である。

【基本目標における数値目標の状況】

K P I の「これからも半田市に住み続けたいと思う市民の割合」は前年度より減少している。この要因を把握するための調査・分析が必要である。

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策 I】畜産への理解促進と良好な生活環境の確保

◎ 重要業績評価指標（K P I）の達成度と評価

指 標	基準値 (2019)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
全畜産施設の敷地境界上における臭気指数15以下の割合	92.6%	94.5%	96.3%	97.9%			100.0%	A
目標値に対する達成率		25.7%	50.0%	71.6%				
はんだふれあい産業まつり入場者数 ※半田運動公園会場のみ	22,000人	0人	0人	15,000人			23,000人	C
目標値に対する達成率		基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿				

K P I に対する 達成状況評価 ※当該年度の達成状況、数値の変化要因等	全畜産施設の敷地境界上における臭気指数15以下の割合
	令和4年度は計3回の臭気測定を行ったが、第1回目は市内全畜産施設（48施設）に対して、2回目と3回目については、過去に高い臭気指数を計測した12施設を対象を絞り、延べ72件の測定を実施した。 その結果、第1回目は48件、第2回目は10件、第3回目は11件について、市が注意喚起の目安とする臭気指数15以下の基準を満たしていた。第2回目及び第3回目は全畜産施設に対して測定を行っていないが、測定を行っていない施設は過去の測定結果から基準を満たしているとみなすと、全3回のトータルで97.9%（141件／144件）が基準を満たしていると評価できる。
	はんだふれあい産業まつり入場者数
	飲食エリアの制限などのコロナ感染対策を講じ、2019年度以来3年ぶりに開催することができた。当日の午後から激しい雨が降ったことも影響し、目標入場者数には届かなかったものの、多くの方に本市の産業の魅力を伝えることができた。

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策 I】畜産への理解促進と良好な生活環境の確保

① 畜産ふん尿の臭気対策の推進

○ 主要な事業、取組

A. 畜産臭気監視事業

(環境課)

○ 事業の概要（目的、実施内容）

良好な住環境を確保するため、畜産施設から発生する臭気が基準に超過していないか監視する。また、大同大学との共同研究で得た知見を基に、産業課と連携し、本市の長年の課題である畜産臭気問題の解決を図る。

大同大学との共同研究で開発した簡易臭気センサーを活用し、継続して市内の畜産施設における臭気測定を実施し、畜産臭気の発生状況を監視する。また、臭気低減の参考としていただくため、測定結果を全畜産農家に通知する。

○ 事業の自己評価、成果等

産業課との連携による継続的な臭気測定と畜産農家への測定結果の通知、強い臭気の発生している特定の施設に対する指導・助言等により、ほとんどの畜産施設において目標指数である臭気指数15以下が達成されており、年々達成割合も上昇している。

○ 事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○ デジ田 交付金	対象外
	526 千円	803 千円	648 千円		

B. 畜産環境対策推進事業

(産業課)

○ 事業の概要（目的、実施内容）

市内では、まちの近くで多くの頭数を飼う集約的・近郊酪農を行っている。牛の飼育頭数は約10,000頭であり、ふん尿による臭気が問題として取り上げられている。畜産臭気軽減のために環境対策推進の各種補助金を交付することで、畜産環境対策の推進に努める。

○ 事業の自己評価、成果等

消臭資機材の使用や耕畜連携における堆肥の搬出をすることで、畜産臭気の軽減が図れている。しかし、問題を完全に解決することが難しいため、今後も臭気対策を継続して行っていく必要がある。

○ 事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○ デジ田 交付金	対象外
	3,498 千円	3,428千円	4,494千円		

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策 I】畜産への理解促進と良好な生活環境の確保

②畜産農業に対する理解の向上

○主要な事業、取組

A. はんだふれあい産業まつり開催事業

(産業課)

○事業の概要（目的、実施内容）

地元商業、工業、農業の各分野から幅広い団体に対し、参加を呼びかけるとともに、魅力ある企画を取り込みながら、現地の産業活動をPRすることで、地産地消の促進及び産業振興を応援する。
はんだふれあい産業まつりをJFE会場及び半田運動公園会場の2会場で2日間開催し、地産地消の促進及び産業振興に寄与する。

○事業の自己評価、成果等

コロナにより令和元年度から開催できていなかったが、令和4年度は感染対策の徹底や飲食エリアの制限など、感染状況に応じた対策を講じた上で開催できた。ジブリパーク開園に合わせた井上あずみさんのライブや、元中日ドラゴンズの福留孝介さんのトークショーなどのイベントで、幅広い年齢層の集客ができた。当日は雨により目標来場者数が達成できなかったが、本事業は地域産業を支える事業者や取組を広く市民に知っていただくための効果的な事業であり、今後もより集客性の高いイベントを計画していく必要がある。

○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	0円 (開催中止)	5,000 千円	1,000 千円		

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅱ】安心・安全なまちづくりの推進

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指標	基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
災害に対する備えができていると思う市民の割合	21.1% (2019)	38.8% (2020)	38.9% (2021)	39.4% (2022)			50.0% (2025)	A
目標値に対する達成率		61.2%	61.6%	63.3%				
半田市内の空家等戸数	736戸 (2018)	601戸 (2020)	591戸 (2021)	574戸 (2022)			736戸	A
目標値に対する達成度		▲135戸	▲145戸	▲162戸				
半田市内の刑法犯の発生件数（件／年）	695件 (2018)	472件 (2020)	431件 (2021)	470件 (2022)			600件	AA
目標値に対する達成率		234.7%	277.9%	236.8%				

KPIに対する 達成状況評価 ※当該年度の達成状況、数値の変化要因等	災害に対する備えができていると思う市民の割合 コロナ禍により実施できていなかった、対人・実践形式でのイベントを再開することができたことや、防災訓練等での市民啓発の継続、令和4年3月作成の水災害ハザードマップを使用したマイタイムライン作成講座の実施、感震ブレーカー設置費補助金の集中啓発等の影響により、指標値は微増となった。 体験型の訓練等、受動的な内容を能動的なものに切り替え、自分ごととして考えていただける防災減災を啓発していき、災害に対する備えができていると思う市民の割合増加に努める。
	半田市内の空家等戸数 基準値である736件の空き家の内、令和4年度中に建設リサイクル法の届出により解体が確認できたものが17件あったため、前回調査で判定した591件から除し574件とした。しかしながら、新たに発生した空き家や利活用など解体以外で空き家が解消した実数は捕捉できていない。空き家の情報を一元管理できるよう、データベースの構築を目指す。
	半田市内の刑法犯の発生件数（件／年） 愛知県全体で刑法犯の発生件数は41,248件（前年比+3,416件）と増加しており、当市も同様に470件（前年比+39件）と増加した。特に自転車盗の件数が多く、盗難車の7割が無施錠であるため、施錠の習慣化に向けた啓発運動を強化していく。 防犯灯を新たに67灯設置し、犯罪の発生頻度が高い夜間の環境良化を進めたことにより、県下では増加傾向にある侵入盗について、減少させることができた。（20件（前年比-11件））

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅱ】安心・安全なまちづくりの推進

①災害に備えた対策の推進

○主要な事業、取組

A.災害対策資機材強化事業

(防災安全課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
大規模災害時に普段の生活にできるだけ近い生活が送れるよう、避難所運営や公衆衛生、要配慮者支援に必要な防災資機材等の整備を行い、避難者の受け入れ体制の強化を図る。また、避難者の受け入れ体制を強化することで、避難者の避難所生活を充実させ、早期の生活再建につなげる。					
○事業の自己評価、成果等					
計画的な資材配備を進めることができた。社会環境に応じて配備物品を随時見直す必要があり、引き続き、避難所の避難者受入体制強化に繋がる資機材について検討していく。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	3,222 千円	1,932 千円	2,774 千円		

B.災害対策資機材更新事業

(防災安全課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
大規模災害発生時に必要となる備蓄食糧、飲料水等の備蓄用品の更新を図る。期限のある他の備蓄用品についても計画的に更新を図る。					
○事業の自己評価、成果等					
期限管理が必要な資材について計画的に更新を進めた。地域の訓練等を通じて、更新する備蓄品について品評いただき、ビスケットをパンに改め、パスタを米に改めた。消費期限や保管性能を担保した上で、より食べやすく、扱いやすいものへと更新していく。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	12,168 千円	10,455 千円	13,160 千円		

C.感震ブレーカー設置促進事業

(防災安全課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
火災の延焼拡大する恐れがある地域、初期消火及び避難行動に時間を要する高齢者、障がい者等のいる世帯について、感震ブレーカーを設置した費用の一部を補助し、大規模地震時の電気に起因する火災の被害を軽減する。					
○事業の自己評価、成果等					
大規模な広報活動を行ったが、申請件数は前年比プラス36件に留まった。同様の課題を抱えている「家具転倒防止器具取付事業」と「感震ブレーカー設置費補助金」を統合し、補助対象者及び補助対象を拡大した新しい補助事業の制度設計を行った。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	7 千円	531千円	0 千円		

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅱ】安心・安全なまちづくりの推進

②地域防災活動の推進

○主要な事業、取組

A.災害対策事業

(防災安全課)

○事業の概要（目的、実施内容）

市民の財産及び生命を守るため、地域の防災力を強化し、災害による被害の軽減を図る。防災訓練や防災キャンプ等での啓発を通じ、市民一人一人の防災意識の向上を図る。また、市内の先進的な避難所運営の取り組み事例を普及し、市全体の防災力の向上に繋げる。

○事業の自己評価、成果等

総合防災訓練等を通じて、住民主体の避難所開設を実施検証した。また、自主防災会連絡会を開催し、避難所運営委員会の組成手順等について水平展開を行い、地域全体の防災力強化に繋がった。

○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	11,400 千円	9,504千円	10,209千円		

○その他の事業、取組

B.消防団事業

(防災安全課)

○事業費

2022年度(R4決算額)

62,178 千円

○デジ田交付金

対象外

③空き家対策の推進

○主要な事業、取組

A.老朽化建築物取壊促進・空家対策事業

(建築課)

○事業の概要（目的、実施内容）

大地震時に倒壊し、二次災害を引き起こす可能性の高い老朽化建築物やブロック塀の取壊・撤去補助の実施及び空家の適正管理を推進することで減災化を図る。

○事業の自己評価、成果等

安全性に不安のある老朽化建物・ブロック塀については、戸別訪問等より補助制度が浸透しつつあり、老朽化建築物取壊補助は48件、ブロック塀等撤去補助は23件の補助を行い例年並みの実績となった。

○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	12,905 千円	10,813 千円	18,213 千円		

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅱ】安心・安全なまちづくりの推進

④ 防犯対策の充実

○ 主要な事業、取組

A. 防犯活動事業

(防災安全課)

○ 事業の概要（目的、実施内容）

「半田市安全なまちづくり条例」に基づき、地域団体や警察、学校、企業等と連携した防犯啓発活動や、市民が気軽に参加することのできる防犯活動への参加促進に努め、「安心・安全なまちづくり」の推進を図る。

○ 事業の自己評価、成果等

新たな啓発活動として自動車ナンバープレート盗難防止ネジ取付キャンペーンを行った。また、防犯教室やキャンペーンはコロナ禍前と同規模まで回復し、市民の防犯意識を高めることができた。

○ 事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○ デジ田 交付金	対象外
	1,468 千円	1,453 千円	1,472 千円		

○ その他の事業、取組

B. 防犯灯整備事業

(防災安全課)

○ 事業費

2022年度(R4決算額)

28,773 千円

○ デジ田交付金

対象外

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅲ】文化の継承と創造の推進

◎ 重要業績評価指標（K P I）の達成度と評価

指標	基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
郷土の文化に関心を持っている市民の割合	51.1% (2019調査)	49.5% (2021調査)	52.2% (2022調査)	52.2% (2023調査)			65.0% (2025調査)	B
目標値に対する達成率		基準値未満	7.9%	7.9%				
文化施設（雁宿ホール・博物館・新美南吉記念館）利用者数（人／年）	198,418 人 (2018)	83,175 人 (2020)	143,715 人 (2021)	180,990 人 (2022)			220,000 人 (2024)	C
目標値に対する達成率		基準値未満	基準値未満	基準値未満				

K P I に対する 達成状況評価 ※当該年度の達成状況、数値の変化要因等	郷土の文化に関心を持っている市民の割合
	博物館におけるテーマを設けた企画展や館藏品展、体験講座等の開催により、郷土の文化の魅力を発信し、地域に対する愛着と誇りの醸成を図った。 また、新美南吉記念館においては、令和5年1月よりストップモーションアニメーション作品「ごん」のDVD等の市内幼稚園、保育園、小中学校への貸出を開始し、令和5年6月1日時点で延べ1,258人の児童・生徒に鑑賞してもらうことができた。 このような取組により、前年度の達成率を維持する結果となったが、今後は、さらに親しみやすく、地域の魅力を活かした企画展や講座の開催、情報発信等を積極的に行い、郷土の文化に関心をもつ市民を増やしたい。
	文化施設（雁宿ホール・博物館・新美南吉記念館）利用者数（人／年） 【雁宿ホール（大ホール）：48,929人（3年度：32,330人）】 施設の利用制限の緩和等、コロナ禍前に戻る途中であり、文化芸術や生涯学習の活動が徐々に回復し、利用者数が昨年度と比較して増加した。また、空調操作盤や雨漏り修繕等することで、より快適な利用環境を整備することができた。今後は、大規模修繕を見据えながら、安全に関わることなど緊急を要する修繕を中心に、計画的な利用環境の整備をすることにより利用者の増加を図る。
	【博物館】：87,966人（3年度：80,402人） 企画展「知多半島の化石」は、県内外の博物館や関係機関から貴重な資料を借用し、展示することができた。また、記念講演会や体験講座など、多くの関連イベントを実施し、期間中は、連日たくさんの親子連れで賑わい、近年では最も来館者数の多い企画展（対前年度比+6,661人）となり、年間利用者数も、コロナ禍前の平成30年度（95,961人）の92%まで回復することができた。今後も魅力的な企画展や講座などを実施し、利用者の増加を図る。

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅲ】文化の継承と創造の推進

<p>K P I に対する 達成状況評価</p> <p>※当該年度の達成状況、数値の変化要因等</p>	<p>【新美南吉記念館：44,095人(3年度:30,983人)】</p> <p>令和5年の南吉生誕110年に向け、新美南吉記念館展示室の一部リニューアル事業を実施した。令和5年1月4日にリニューアルオープンし、南吉生誕110年のPRとの相乗効果により、1～3月期で比較すると、令和3年度5,972人から令和4年度11,426人の91%増となった。コロナ禍も落ち着き、一年を通して昨年度と比較して利用者数は42%増となった。また、リニューアルオープンに合わせて、館内ビデオシアターにて、ストップモーションアニメごんの上映を始めた。市内全小中学生に家族招待券付き案内チラシを配付するなど、令和5年度も引き続き、南吉生誕110年のPRにより利用者の増加を図っていく。</p>
---	---

①文化の振興

○主要な事業、取組

A.文化芸術普及推進事業

(生涯学習課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
<p>まちなかや身近な場所で文化や芸術に触れ、体験や鑑賞ができる事業を実施することにより、市民が文化芸術に対する興味を持つきっかけをつくり、親しみをより深めてもらったりすることを目指す。また、そういった文化芸術に関する情報を確実に届ける仕組みを構築する。まちなかでアート、美術展、各種展覧会等を実施した。</p>					
○事業の自己評価、成果等					
<p>あいち国際芸術祭2022のプレイベントとして、現代アート展覧会「HANDA NEW VISION -アートの目覚め-」を半田赤レンガ建物と旧中埜半六邸で開催するとともに、愛知県芸術劇場との連携により、同芸術祭の巡回展示「あいち2022」ポップ・アップ！を旧中埜半六邸と半田市役所において開催した。イベントや公園等の施設において、アートパフォーマンスや音楽生演奏、体験ワークショップを行う「まちなかでアート」を実施した。このような取組により、文化拠点だけでなく、日常の中でアートに出会える機会を創出することにより、市民が文化芸術に興味・関心を持ち、愉しむきっかけづくりを図ることができた。</p>					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象 (地方創生推 進)
	-	4,871 千円	5,516 千円		

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅲ】文化の継承と創造の推進

B.音楽のあるまちづくり事業

（生涯学習課）

○事業の概要（目的、実施内容）					
<p>新たな音楽文化の創造や醸成を促し、ひとづくりやまちづくりに繋げていくとともに、心豊かな市民生活と活力ある地域社会の実現に寄与する。セントラル愛知との協定事業（公演事業、小・中・幼・保等でのアウトリーチ・ワークショップ等）、海外アーティストの公演等を実施した。</p>					
○事業の自己評価、成果等					
<p>セントラル愛知交響楽団との協定事業としては、雁宿ホールの大ホールでのコンサート、興味の度合いに合わせた「ビギクラ♪はんだ2022」、「中学校へのワークショップ」、「小学校・幼稚園・保育園・こども園へのアウトリーチ」、親子で鑑賞できる「ちいさなコンサート」などを開催し、質の高い音楽の提供により、市民における音楽文化の醸成を図ることができた。また、協定外の事業としては、「プラハ・チェロ・リパブリック公演」や「ロビーコンサート」などを開催した。新規の参加者が一定程度増加している一方で、市民の需要に合わせた事業の実施により認知度を高め、参加者を増やすことが求められている。</p>					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	9,940 千円	12,083 千円	11,094 千円		

C.企画展開催事業

（博物館）

○事業の概要（目的、実施内容）					
<p>常設展示の内容を補完する展示事業として、テーマや期間を設けた企画展・館蔵品展等を開催する。企画展では主に他館から貴重な資料を借用し、館蔵品展では主に美術品など当館の収蔵資料を展示する。</p>					
○事業の自己評価、成果等					
<p>企画展「知多半島の化石」は、県内外の博物館や関係機関から貴重な資料を借用し、展示することができた。また、記念講演会や体験講座など、多くの関連イベントを実施したことにより、期間中は、連日たくさんの親子連れで賑わい、近年では最も来館者数の多い企画展となった（対前年度比+6,661人）。さらに、企画展を観覧した学校関係者から出前講座の依頼があるなど、企画展の開催が教育普及活動にもつながった。一方で、何れの展示でも解説パネルやキャプションが難しい・分かりづらいという意見もあり、より分かりやすいものに改善していく必要がある。</p>					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	1,739 千円	1,757 千円	1,991 千円		

○その他の事業、取組

D.生涯学習推進事業

（生涯学習課）

○事業費 2022年度(R4決算額)	600 千円	○デジ田交付金	対象 (地方創生推進)
-----------------------	--------	---------	----------------

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅲ】文化の継承と創造の推進

②文化財の保存継承と活用

○主要な事業、取組

A.文化財保護事業

(博物館)

○事業の概要（目的、実施内容）					
文化財専門委員会の運営及び諮問、文化財指定候補の調査研究、指定文化財の保存伝承に要する経費への補助とともに、情報発信を通じ、文化財の保護啓発を行う。					
○事業の自己評価、成果等					
文化財専門委員会による文化財指定候補の調査研究のほか、指定文化財の保存伝承に要する経費への補助や文化財の保護啓発を行った。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	6,087 千円	6,228 千円	6,263 千円		

B.旧中埜家住宅保存管理事業

(博物館)

○事業の概要（目的、実施内容）					
国の重要文化財「旧中埜家住宅」を後世へ継承するため、文化財としての価値を後世に向けて維持するための「保存管理」と、文化財保護の大切さを人々に伝える「活用」を行う。					
○事業の自己評価、成果等					
国の重要文化財である旧中埜家住宅の保存継承を図ることができた。また、特別公開を始めとした公開等活用により、文化財保護意識の向上及び地域文化の振興に寄与することができた。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	6,656 千円	6,842 千円	7,209 千円		

C.文化財保存修理等補助事業

(博物館)

○事業の概要（目的、実施内容）					
文化財保護法、愛知県文化財保護条例及び半田市文化財保護条例に規定する文化財の保護に要する経費について、当該文化財の所有者及び管理者に対して補助金を交付する。					
○事業の自己評価、成果等					
補助金の適切な支出により、文化財の伝承・保護のために必要な保存修理を図ることができた。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	10,438 千円	6,409 千円	4,162 千円		

○その他の事業、取組

D.ストップモーションアニメごん上映事業

(新美南吉記念館)

○事業費 2022年度(R4決算額)	848 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	--------	---------	-----

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅳ】健康づくりの推進と医療体制の充実

◎ 重要業績評価指標（K P I）の達成度と評価

指 標	基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
メタボリックシンドローム該当者の割合	25.3% (2018)	24.5% (2019)	26.1% (2020)	27.1% (2021)			20% (2023)	C
目標値に対する達成率		15.1%	基準値超過	基準値超過				
半田病院における入院全体について「ほぼ満足である」以上の評価をした患者の割合	88.9% (2018)	79.6% (2020)	79.0% (2021)	80.9% (2022)			90% (2024)	C
目標値に対する達成率		基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿				

K P I に対する 達成状況評価 ※当該年度の達成状況、数値の変化要因等	メタボリックシンドローム該当者の割合 特定保健指導対象者に対して行う個別指導、集団指導（食生活・運動講座）の利用率は前年度と比べ増加したものの、長引くコロナ禍の影響もあってメタボリックシンドローム該当率は増加に至った。今後は、企業等と連携するなど指導の内容及びメタボ予防の普及・啓発を工夫する。
	半田病院における入院全体について「ほぼ満足である」以上の評価をした患者の割合 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響下において、入院中の感染対策や行動制限、面会制限などをお願いすることとなったが、令和3年度に導入したタブレットによるオンライン面会の利用促進を図るなど、引き続き療養環境の改善に努めた。

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅳ】健康づくりの推進と医療体制の充実

①健康づくりの推進

○主要な事業、取組

A.健康づくり推進事業

(健康課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
健康寿命の延伸および自殺者の減少のため、年齢を問わず市民一人ひとりの身体とこころの健康づくりを推進する。そのため、健康講座、健康相談および人材育成等を行う。					
○事業の自己評価、成果等					
民間企業の協力を得てインセンティブによる健康づくりの推進ができた。 健康マイレージの申請者は高齢者が多く固定化しており、若い世代の参加など新規利用者を拡大するために新たなツールが必要である。 女性や若者に対する自殺対策を行うことができたが、若年層や女性の自殺者数は横ばい、40代の働き盛りは増加した。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	1,624 千円	1,199 千円	1,695 千円		

B.がん検診等推進事業

(健康課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
健康増進法に基づき、健康の保持、がんの早期発見及び早期治療を目的に、対象年齢の市民に対し各種がん検診（21項目）を実施する。また、受診勧奨を実施し、受診率向上を図る。					
○事業の自己評価、成果等					
肺がん検診は、自己負担金の無料化や特定健診との同時受診の勧奨により、目標を達成した（目標：18.0% 実績：18.4%）。 乳がん検診は、個別勧奨の内容を工夫したことにより、受診率が向上した。 国保特定健診や協会けんぽ愛知支部と連携し、対象者へがん検診案内を送付するとともに、国保特定健診や協会けんぽとの合同検診を実施したことにより受診促進につながった。 5大がん（肺・大腸・胃・乳・子宮頸）検診の個別勧奨を実施したことにより受診促進につながった。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	76,415 千円	61,376 千円	67,476 千円		

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅳ】健康づくりの推進と医療体制の充実

C. 特定健康診査等事業

(健康課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
かかりつけ医と連携し、40歳から74歳までの被保険者を対象に、内臓脂肪型肥満に着目した個別健診方式による、特定健康診査・特定保健指導を継続実施する。受診率向上のため、ハガキや封書、電話による受診勧奨を実施する。					
○事業の自己評価、成果等					
未受診者への受診勧奨（ハガキ、封書による勧奨、がん検診との合同健診等）を実施し、特定健康診査の受診率向上を目指した。また、新型コロナウイルス感染症による受診控えに対応するため、健診期間を約1か月延長して実施し、被保険者の受診機会の確保に努めた。特定保健指導利用率は、積極的な訪問や面談を実施し、被保険者の生活習慣改善につなげることができた。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	108,089 千円	102,197 千円	116,470 千円		

○その他の事業、取組

D. 感染症予防事業

(健康課)

○事業費 2022年度(R4決算額)	3,956 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	----------	---------	-----

E. 社会体育振興事業

(スポーツ課)

はんだシティマラソン大会では、これまでのソロ形式のみの開催から、他団体を参考に、企画・調整を行い、新たな開催形式にチャレンジし、団体で出場し協力しながら完走を目指すリレー形式を主とした内容で開催した。			
参加者向けに実施したアンケートでは、リレー形式について「こどもと一緒に走れたので記念になった。」など好評を得る回答もあったが、中には「ソロ形式の人数を増やしてほしい。」という声もあったため、令和5年度ではリレー形式とソロ形式で大会を開催する。			
○事業費 2022年度(R4決算額)	17,751 千円	○デジ田交付金	対象外

F. 半田運動公園管理運営事業

(スポーツ課)

半田運動公園は、ちびっこ広場、陸上競技場、テニスコート、トレーニング室等を有している施設で、子どもから高齢者まで幅広い年齢層が無理なく自分に合った方法で体を動かすことができる施設であるため、利用者の声を聴きながら、誰もが安心・安全・快適に利用できるよう施設の維持管理を行った。			
○事業費 2022年度(R4決算額)	89,231 千円	○デジ田交付金	対象外

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅳ】健康づくりの推進と医療体制の充実

②医療体制の充実

○主要な事業、取組

A.病院経営事業（半田病院）

（半田病院管理課）

○事業の概要（目的、実施内容）						
市民の福祉、健康保持に必要な安全で安心かつ質の高い医療を提供するため、救急・がんなどの高度医療や、地域の医療機関等との役割分担、連携の中心的な役割を果たすとともに、効率的で健全な経営を継続する。						
○事業の自己評価、成果等						
新型コロナウイルス感染症が感染の拡大と収束を繰り返す中で、地域の基幹病院としての役割を全うすべく、3次救急医療用の病床確保や臨時的なコロナ専用病床を設置するなどして感染拡大に対処した。特に常滑市民病院とは、限られた人員・医療環境の中で地域医療を守るために両病院で緊密な医療連携・機能分担を行い、救急医療と感染症医療を両立させるとともに、より高度急性期に特化した医療を提供することで収益を伸ばした。その結果、光熱費の高騰が経営を圧迫する中においても、経常収支、医療収支ともに黒字となり、令和4年度は史上最高の10億8千万円の純利益となった。						
○事業費	収益的支出	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	資本的支出	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)		
		13,620,260 千円	14,357,501 千円	16,025,383 千円		
		1,429,900 千円	3,053,744 千円	11,746,766 千円		

B.新病院建設事業（半田病院）

（半田病院管理課）

○事業の概要（目的、実施内容）						
現病院の老朽化・狭あい化、耐震面での課題を解消し、最新医療機器の導入とあわせて急性期医療をさらに高度化するとともに、新たな感染症にも対応でき、大規模な自然災害時にも継続可能な新病院を建設する。 令和7年春の開院に向けて、新病院の建設設計、医療コンサルタント、新病院建設工事、工事監理等を実施する。						
○事業の自己評価、成果等						
事務局会議、各種分科会等で新病院建設に必要な課題を段階的に整理し、病院関係者と協議を重ね決定し、実施設計を完了し、建築確認済証の交付を受けることができた。造成工事、建設工事の契約を締結し、工事に着手した。						
○事業費		2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象外
		683,891 千円	2,391,755 千円	11,196,233 千円		

○その他の事業、取組

C.救急医療対策推進事業

（健康課）

○事業費 2022年度(R4決算額)	14,313千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	----------	---------	-----

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策V】多文化共生の推進

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指標	基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
多文化共生に関する啓発の実施回数（回／年）	1回 (2018)	3回 (2020)	3回 (2021)	5回 (2022)			5回	AA
目標値に対する達成率		50.0%	50.0%	100.0%				
多文化共生という言葉を知ったことがある市民の割合	58.4% (2019)	39.9% (2021調査)	45.8% (2022調査)	47.6% (2023調査)			80% (2025)	C
目標値に対する達成率		基準値未満	基準値未満	基準値未満				

KPIに対する 達成状況評価	多文化共生に関する啓発の実施回数（回／年） 職員向けのやさしい日本語研修を実施し、職員の共生意識の醸成を図ったほか、新たな取組として外国籍市民が生活する上で必要・有用となる情報等を伝えるため、生活ガイド講座を実施し、やさしい日本語での防災講座、ごんくるバスの利用促進等を目的とした外国籍市民向けバスツアー等を実施した。また、災害時に外国籍市民をサポートできる人材の養成を目的に多文化災害ボランティア養成講座を実施するなど、様々なテーマの事業を通じて啓発に繋げることができた。
	多文化共生という言葉を知ったことがある市民の割合 外国籍市民向け相談窓口（多文化共生コーナー）や多文化共生Facebookページの普及が進んでいるほか、市実施の多文化共生事業だけでなく地域の市民活動団体等が市助成金等を活用して多文化共生事業を実施するなど、多文化共生への取り組みの輪が広がっており、多文化共生に興味・関心を持つ市民の増加につながっている。

※当該年度の達成状況、数値の変化要因等

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅴ】多文化共生の推進

①多文化社会を支えるひとづくり・まちづくり / ②共生のための支援

○主要な事業、取組

A. 多文化共生推進事業

(市民協働課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
「多文化共生プラン」に基づき、「多文化を支えるひとづくり」、「共生のための支援」、「協働によるまちづくり」を基本目標に、様々な施策により外国籍市民が地域住民と共生する多文化共生社会の実現を目指す。					
○事業の自己評価、成果等					
相談業務は、昨年度に引き続き増加傾向にあるなど外国籍市民への支援として機能しており、SNSでの情報発信についても、窓口での相談を基にした内容を発信することができている。また、多様な事業展開により、市民の多文化共生への理解促進に努めた。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象 (地方創生推進)
	4,108 千円	6,760 千円	7,020 千円		

B. 日本語初期指導事業

(学校教育課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
日本語を話すことができない児童生徒に対して、初期の日本語指導や学校生活指導を一定期間集中的に行うことで、小・中学校での学校生活に適應できるようにする。					
○事業の自己評価、成果等					
対象となる児童生徒の日本語能力に応じて、「話す・聞く・読む・書く」の4技能をバランスよく指導したことにより、学校生活を送るうえで必要となる基礎的な日本語能力を身に付けさせることができた。また、定員に上限があったことや指導実施校までの保護者送迎が困難であったこと等により、対面指導を受けることができなかった児童生徒に対しては、オンラインによる遠隔指導を行った。					
○事業費	2021年度 (R3決算額)	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5予算額)	○デジ田 交付金	対象 (地方創生推進)
	5,251 千円	8,912 千円	9,191 千円		

○その他の事業、取組

C. 外国語指導助手配置事業

(学校教育課)

外国語指導者(A L T) 6名が市内小中学校及び幼稚園を巡回し、外国語指導及び国際理解教育を行っている。英語を母国語とする指導者が授業や学校生活に関わることで、児童生徒が外国語を話し伝えることができる喜びを感じ、また、異文化に触れる機会を増やしている。			
○事業費 2022年度(R4決算額)	29,106 千円	○デジ田交付金	対象外

令和5年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策V】多文化共生の推進

D.ごみ減量対策事業（ごみ出し冊子の外国語版発行）

（環境課）

ごみ出し冊子『家庭ごみの分別と資源の正しい出し方』の外国語版(英語・中国語・ポルトガル語・ベトナム語)を作成。(3年ごとに更新。今回はR3に令和4年度版を作成したため、今回はR6に令和7年度版を作成予定。)			
○事業費 2022年度(R4決算額)	0千円	○デジ田交付金	対象 (地方創生推進)

5. デジタル田園都市国家構想交付金 対象事業の効果検証

生きがいと社会貢献を育む新地域コミュニティの構築事業

(総合戦略 基本目標 3・4)

<p>事業概要</p>	<p>地域のまちづくりを支える中心的な組織として小学校区コミュニティの構築に向けた取組を行う。また、自治区や市民活動団体といった既存の地域活動団体の活性化のための支援を行うとともに、外国籍市民を含めた地域コミュニティへの参加市民を増やすための多文化共生等の取組を行うことにより、働きながら無理なく地域活動に参加し活動を継続できる環境づくりを目指す。</p>
<p>交付対象事業</p>	<p>1. 小学校区コミュニティ構築事業</p> <p>(1) 小学校区コミュニティ活動支援事業【市民協働課】(基本目標 3-施策Ⅲ-①) 小学校区コミュニティの構築に向け、地域の関係者が地域課題を話し合える場づくりを支援する。「成岩地区」の区長と小学校区コミュニティの必要性や行政が考える方向性を情報共有・意見交換する機会を持ち、次年度に向けた課題を把握することができた。</p> <p>(2) コミュニティスクール推進事業【学校教育課】(基本目標 3-施策Ⅱ-②) 地域と学校が互いにパートナーとして「連携・協働」を行い、地域と学校の協働体制を構築し、教育活動等の活性化を図るもの。市内全小中学校の学校運営協議会を中心に、学校を核とした地域住民等の参画を得た取組みが実践されたことで、学校運営に欠かすことのできない地域の連携につながった。</p> <p>2. 地域活動活性化事業</p> <p>小学校区コミュニティの構築・活性化は市民活動団体の事業活性化と密接に関連している。そのため、小学校区コミュニティを構築するための取り組みと並行して、市民活動団体等の事業活性化を図る。また、地域コミュニティの形成や活性化に向けて、環境整備への助成等を行う。</p> <p>(1) 市民活動助成事業【市民協働課】(基本目標 3-施策Ⅲ-①) 市民活動団体等の行う公益的な事業に対して市民活動助成金を交付するもの。地域課題解決のための持続可能な事業に対し助成することにより、きめ細かな市民ニーズに対応でき、住みよいまちづくりにつなげた。</p> <p>(2) 地域環境整備事業【市民協働課】(基本目標 3-施策Ⅲ-①) コミュニティ環境整備助成事業【市民協働課】(基本目標 3-施策Ⅲ-①) 地域団体が自主的かつ自立的に活動するために、備品の購入等に対する助成や、地域の公園等の公共施設をより快適に使うための整備資材を支給するもの。</p> <p>(3) 公園管理事業【都市計画課】(基本目標 3-施策Ⅲ-①) 地域の公園は定期的に専門業者に樹木剪定、草刈りを委託しているが、さらに快適にかつ自由に利用してもらうために、希望する地域団体に対して公園管理を委託するもの。公園の美化と併せて、地域イベントの開催等、地域の活動拠点として利用できる公園の整備を目指す。</p> <p>3. 外国籍市民地域活動参加推進事業</p> <p>地域活動にかかわる外国籍市民を増やすとともに、言葉・文化の相互理解を図るとともに、語学学習や生活ルールの情報提供を行う。</p> <p>(1) 多文化共生推進事業【市民協働課】(基本目標 4-施策Ⅴ-①、②) 多文化共生社会の実現に向け、日常生活のための日本語教室開催や相談窓口による支援、外国籍市民と交流を目的としたボランティア養成講座や地域交流事業、市路線バスを体験してもらう「外国籍市民向けミニバスツアー」等、多様な事業展開により市民の多文化共生への理解促進を図った。</p> <p>(2) 日本語初期指導事業【学校教育課】(基本目標 4-施策Ⅴ-②) 日本語を話すことができない児童生徒の日本語習得を目的として、初期の日本語指導や学校生活指導を一定期間集中的に行うことで、市内の小・中学校での学校生活に適應できるようにするもの。</p> <p>(3) ごみ減量対策事業【環境課】(基本目標 4-施策Ⅴ-②) 外国籍市民への生活ルールの情報提供のため、ごみ出しのルールのパンフレットを多言語(ポルトガル語、中国語、英語、ベトナム語)で作成するもの。</p>

交付対象事業	4. 市民活動スキルアップ事業 (1) はんだまちづくりひろば運営事業【市民協働課】（基本目標 3 -施策Ⅲ-①） 市民活動や地域で活動を行う団体等の活動を支援し、協働のまちづくりを推進するため、市民活動・ボランティア活動を行う団体等の相談事業や各種講座の開催等を行い、団体活動への支援を行うもの。 (2) 生涯学習推進事業【生涯学習課】（基本目標 4 -施策Ⅲ-①） 市民の求める生涯学習機会及びその情報の提供を目的として、一人ひとりが自らを高めるための講座の開設や、学習の成果を地域で積極的に生かし「自分づくり」「ひとづくり」「まちづくり」につながるような学習の支援を進めるもの。地域活動で活かせるスキルの向上のための講座を日本福祉大学と共催により実施した。
	事業費 (交付額)

交付金対象事業の各種指標（KPI）

No.	指標	2020年度 (R2) 当初値	2021年度 (R3) 実績値(目標値)	2022年度 (R4) 実績値(目標値)	2023年度 (R5) 目標値
①	小学校区コミュニティの設立数	累計 4団体	累計 4団体 (累計 6団体)	累計 7団体 (累計 8団体)	- (累計 13団体)
②	若い世代（39歳以下）の 転入者数-転出者集	-	▲468人 (500人)	▲127人 (1,500人)	- (3,000人)
③	コミュニティ・スクールの活動回数 (1校あたりの平均回数/年)	-	47回 (40回)	56回 (45回)	- (50回)
④	外国籍市民向けフェイスブック登録者数	225人	312人 (300人)	1,019人 (400人)	- (500人)

有識者による効果検証

外部組織による本事業の評価	①	選択肢 (2択)	① 地方版総合戦略のKPI達成に有効であった ② 地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えない
---------------	---	---------------------	--

伝統のまち「はんだ」の魅力向上事業

(総合戦略 基本目標 1～4)

事業概要	<p>観光・産業分野のほか、文化・芸術分野からも本市の新たな魅力を築き、新しい関係人口の創出を目指す。本市の醸造業やすしに着目した食の観光推進や、中心市街地及び商業施設の活性化のための取組を実施する。さらに、市民がまちなかや身近な場所で文化や芸術に触れられる取組を併せて行うことにより、新たな賑わいの創出や地域の活性化を図る。</p>
交付対象事業	<p>1. 観光推進事業</p> <p>(1) 観光振興事業【観光課】(基本目標 2 - 施策 I - ①②③) 名鉄とタイアップしたいいかも半田キャンペーン推進事業やすしにスポットをあてた食の観光推進事業やプロモーションを実施し、より一層の誘客・情報発信を行うもの。また、半田めぐりんMAPのデジタル化により、日常的な誘客を促進し、すしや知多牛のキャンペーンを実施することにより回遊性向上や消費促進につなげた。</p> <p>(2) 文化芸術普及推進事業【生涯学習課】(基本目標 4 - 施策 III - ①) 市民が文化芸術に対する興味を持つきっかけをつくり、親しみをより深めてもらったりすることを目的に、まちなかや身近な場所で文化や芸術に触れ体験や鑑賞ができる企画を実施するもの。展示鑑賞だけでなく体験ワークショップも盛り込んだ鑑賞・体験事業を実施し、文化芸術の振興を図った。</p> <p>2. 中心市街地活性化支援事業</p> <p>(1) 中心市街地活性化支援事業【産業課】(基本目標 1 - 施策 I - ③) 中心市街地を社会的、経済的及び文化的活動の拠点として魅力ある場所にするため、中心市街地商業活性化にぎわい事業補助金及び中心市街地まちづくり支援事業補助金を交付するもの。商工会議所まちづくり推進室と連携し、チャレンジショップ事業の実施や、商店街等が実施する地域賑わいイベントの後方支援、知多半田駅ロータリーなどの公共空間を活用した賑わい創出の取組を実施した。</p> <p>3. 商業施設助成事業</p> <p>(1) 商業施設助成事業【産業課】(基本目標 1 - 施策 I - ③) 持続可能な商業振興を目的として、計画的に地域に必要とされる業種を配置することで、魅力ある個店づくりを支援するもの。中心市街地（出店促進エリア）や商店街エリアの事業者に対して施設整備費、改装費を補助したことにより、魅力ある個店の展開につなげた。</p> <p>4. シティプロモーション推進事業</p> <p>(1) シティプロモーション推進事業【企画課】 (基本目標 1 - 施策 II - ③、基本目標 2 - 施策 I - ③、基本目標 3 - 施策 III - ②) 定住人口の増加を目指し、本市の都市イメージの向上や市民の愛着の醸成に資する取組を行うもの。西三河地域を対象にした情報誌のインパクトある広報や若者世代などターゲットを絞った情報発信等、半田の魅力発信のための取組を実施した。</p>
事業費 (交付額)	<p>26,240,210円 (13,120,105円) ※交付率1/2</p>

交付金対象事業の各種指標（K P I）

No.	指 標	2021年度 (R3) 当初値	2022年度 (R4) 実績値(目標値)	2023年度 (R5) (目標値)	2024年度 (R6) (目標値)
①	中心市街地の歩行者数	5,000人	6,917人 (5,500人)	- (6,000人)	- (6,500人)
②	デジタルクーポン利用者数 (半田めぐりんMAPデジタルのクーポン利用者数)	0人	1,464人 (8,610人)	- (10,849人)	- (11,391人)
③	鉄道キャンペーン参加者数 (名古屋鉄道㈱とのいいかも！半田キャンペーンに おけるチケット販売数)	30人	1,575人 (230人)	- (430人)	- (630人)

有識者による効果検証

外部組織による本事業の評価	①
---------------	---

- 選択肢 (2 択)
- ① 地方版総合戦略のKPI達成に有効であった
 - ② 地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えない